

第1章

調査結果の概要

I 児童生徒に対する調査 14

1 実技に関する調査結果 14

2 1週間の総運動時間と体力・運動能力 22

3 運動やスポーツに対する意識 26

4 体育・保健体育の授業に対する意識 28

5 生活習慣と体力 30

6 体格と体力、運動習慣 36

II 学校に対する調査 38

I 児童生徒に対する調査

1 実技に関する調査結果

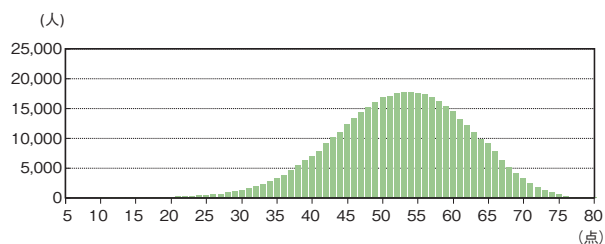
1-1 実技結果と経年変化(国・公・私立学校)【小学校】

〈実技結果(令和3年度)〉

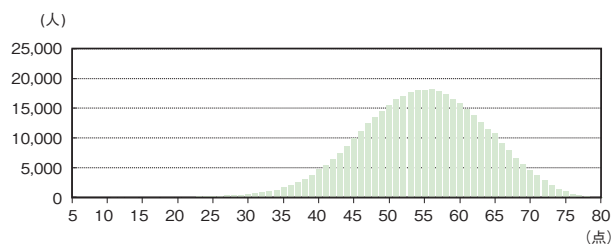
令和3年度調査の体力合計点の平均値は男子が52.53点、女子が54.66点であった。なお、各種目の実技結果の分布、及び、平均値と総合評価の段階別の割合は次のとおりである。

〈体力合計点(令和3年度)〉

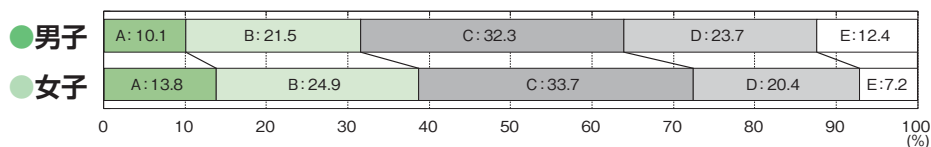
●男子	標本数	平均値	標準偏差
	429,004人	52.53点	9.48



●女子	標本数	平均値	標準偏差
	411,774人	54.66点	8.87

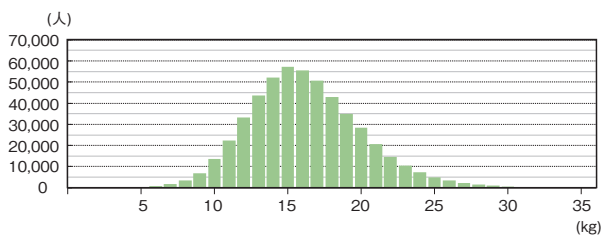


〈総合評価・段階別(令和3年度)〉

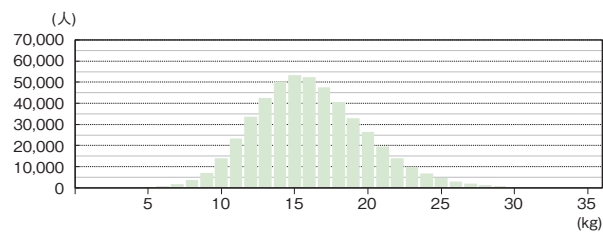


握力

●男子	標本数	平均値	標準偏差
	515,041人	16.22kg	3.89

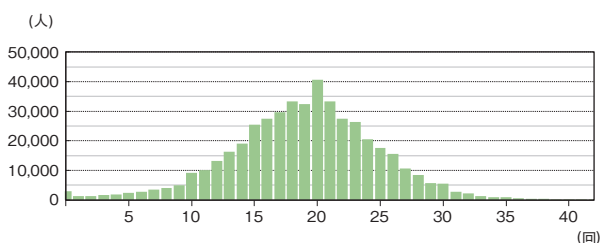


●女子	標本数	平均値	標準偏差
	493,524人	16.09kg	3.87

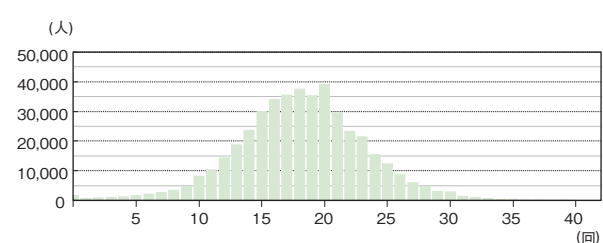


上体起こし

●男子	標本数	平均値	標準偏差
	463,887人	18.89回	5.95

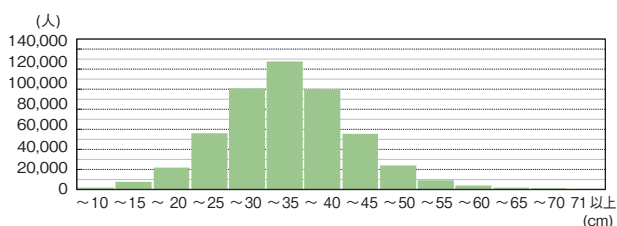


●女子	標本数	平均値	標準偏差
	444,341人	18.07回	5.27

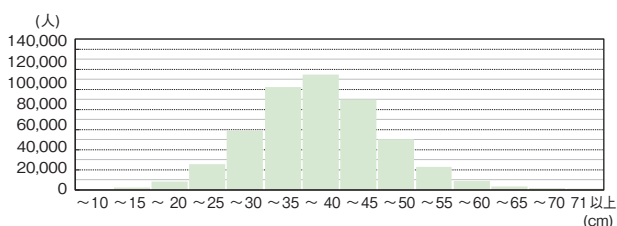


長座体前屈

●男子	標本数	平均値	標準偏差
	511,067人	33.49cm	8.72

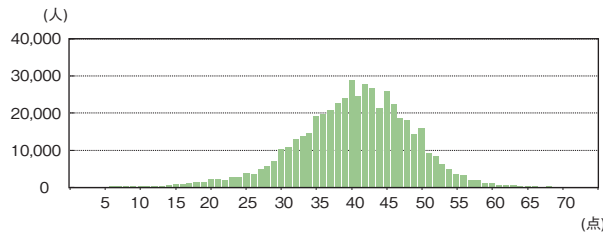


●女子	標本数	平均値	標準偏差
	490,057人	37.92cm	8.93

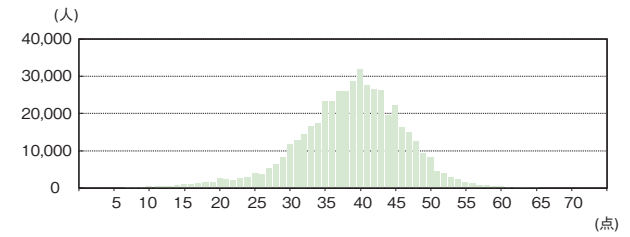


反復横とび

男子	標本数	平均値	標準偏差
	504,923 人	40.36 点	8.37

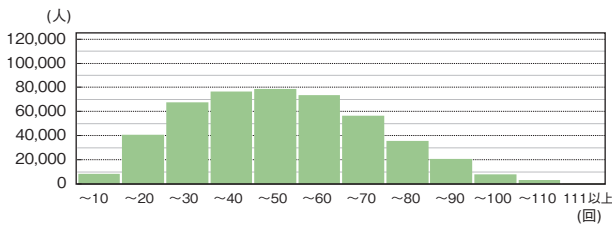


女子	標本数	平均値	標準偏差
	483,456 人	38.73 点	7.54

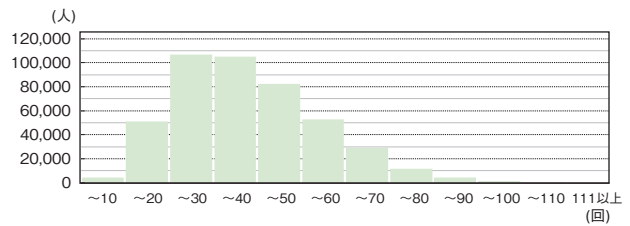


20m シャトルラン

男子	標本数	平均値	標準偏差
	469,454 人	46.85 回	21.01

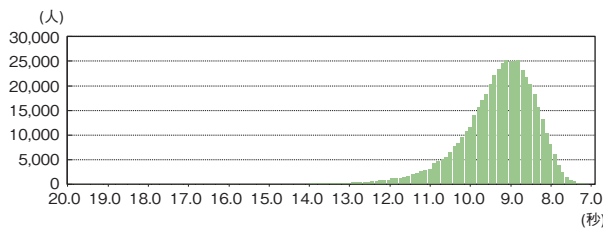


女子	標本数	平均値	標準偏差
	449,486 人	38.16 回	16.14

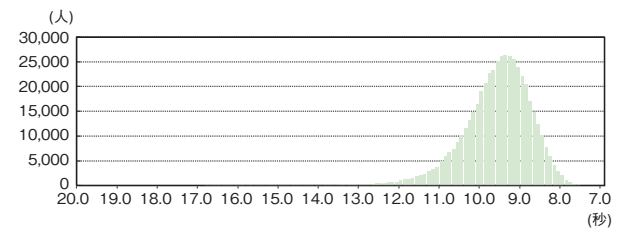


50m 走

男子	標本数	平均値	標準偏差
	510,803 人	9.45 秒	1.07

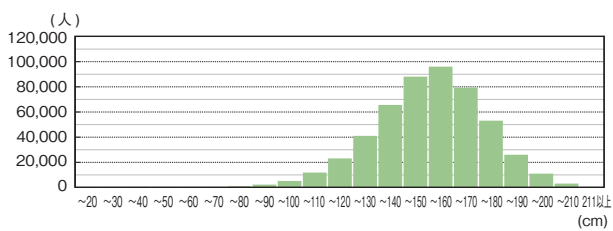


女子	標本数	平均値	標準偏差
	489,303 人	9.64 秒	0.88

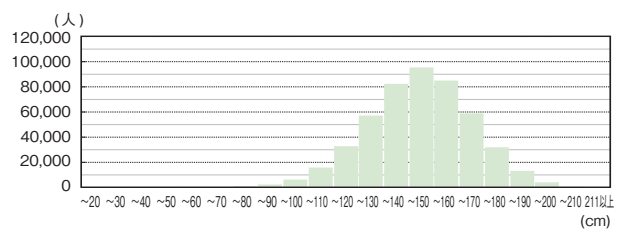


立ち幅とび

男子	標本数	平均値	標準偏差
	510,648 人	151.43cm	23.36

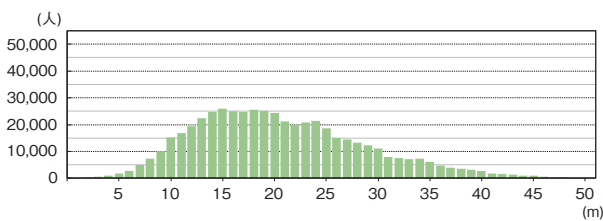


女子	標本数	平均値	標準偏差
	489,272 人	145.22cm	21.81

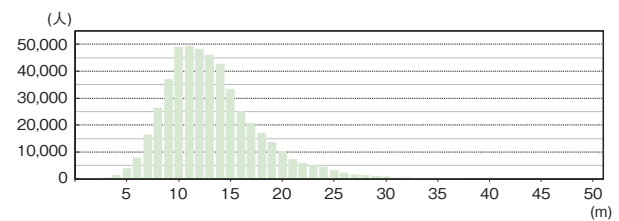


ソフトボール投げ

男子	標本数	平均値	標準偏差
	509,389 人	20.58m	8.15



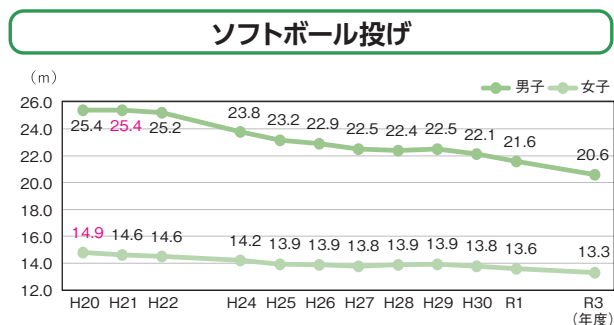
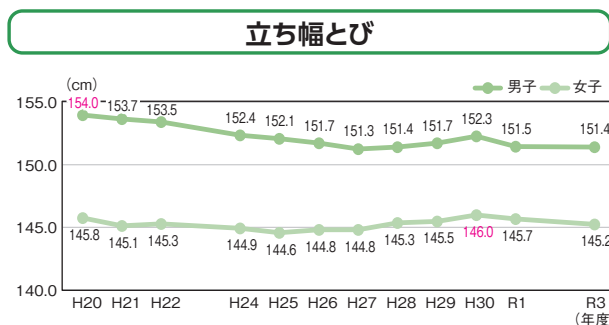
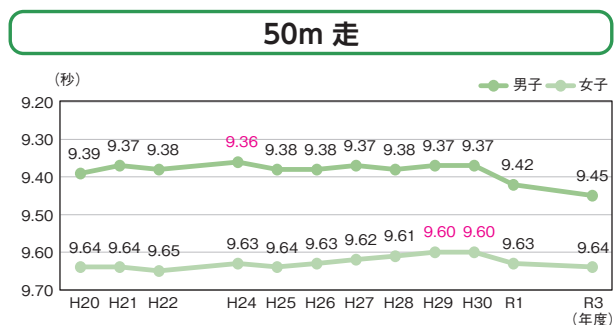
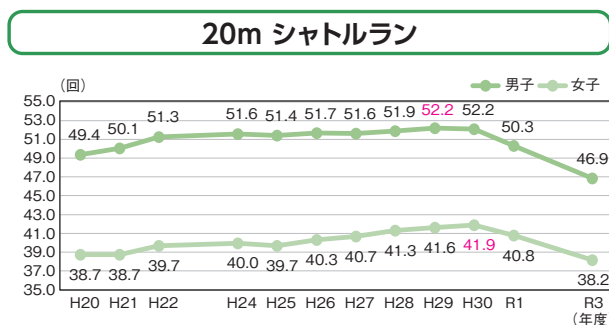
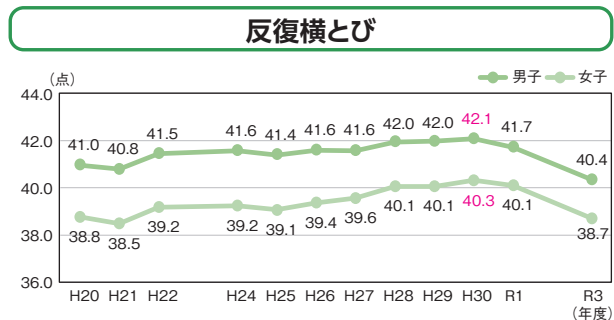
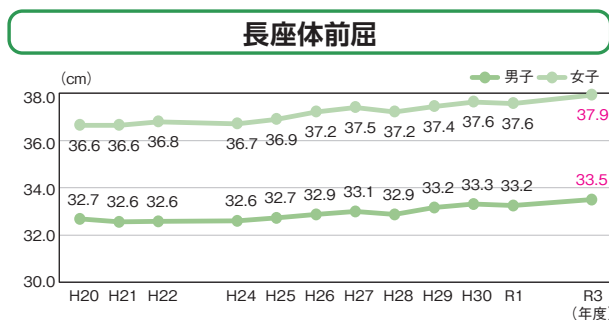
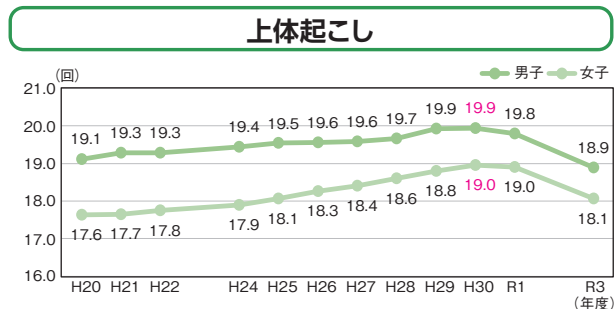
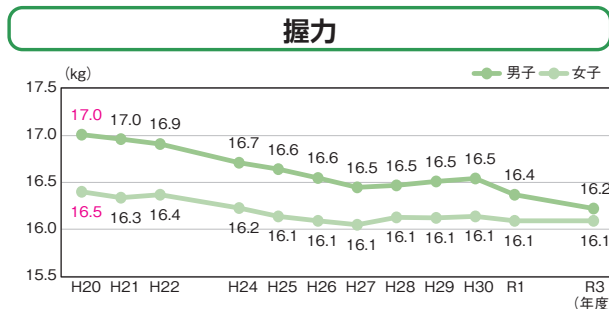
女子	標本数	平均値	標準偏差
	487,928 人	13.30m	4.71



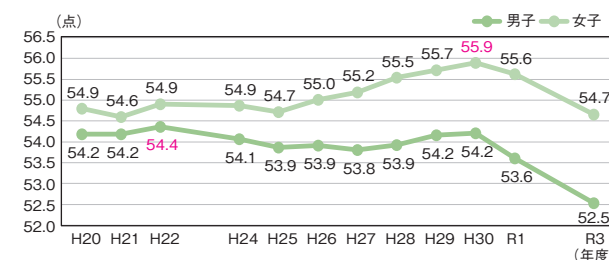
〈各種目の経年変化〉

種目別に見ると、男女ともに令和元年度に比べ、「上体起こし」、「反復横とび」、「20mシャトルラン」で大きく低下した一方、「長座体前屈」は向上傾向が見られる。また、体力合計点については、男女ともに体力低下の兆しが見られた令和元年度から低下した。

※赤い数値は最高値（小数点第2位まででの比較）

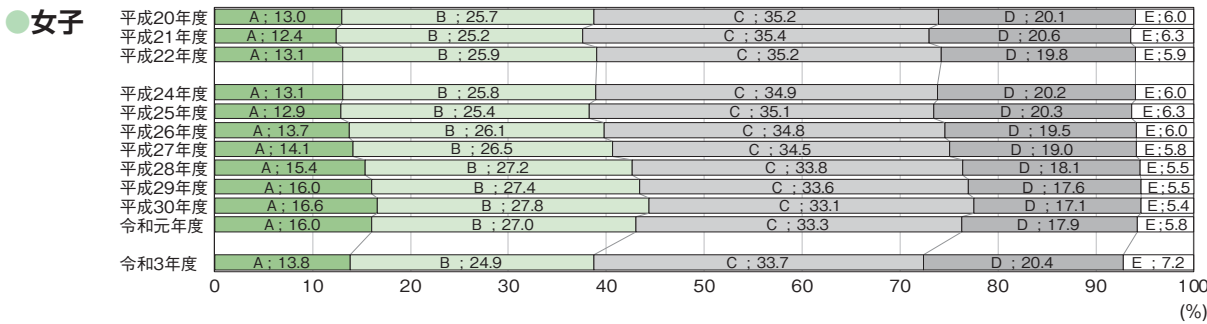
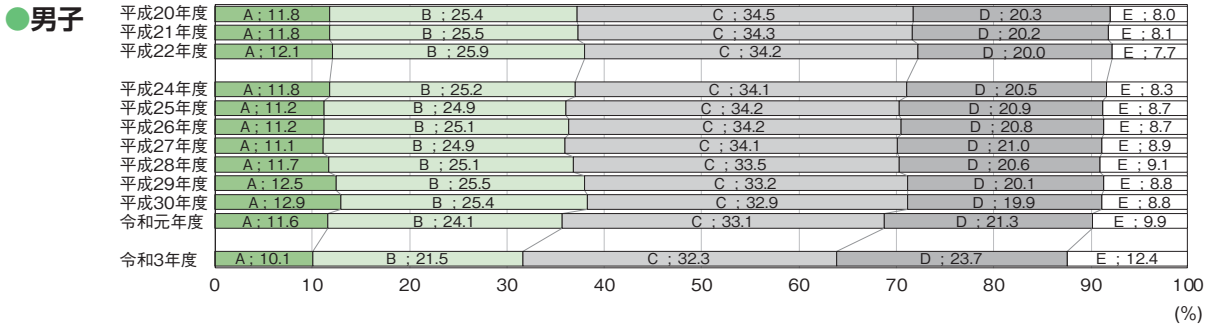


〈体力合計点の経年変化〉

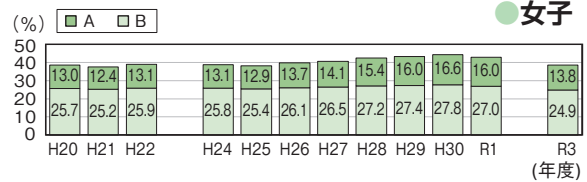
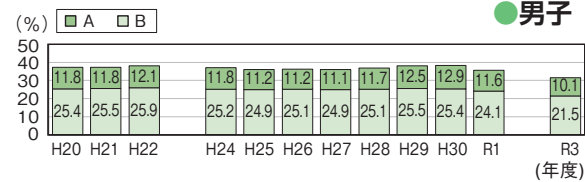


〈総合評価（段階別）の経年変化〉

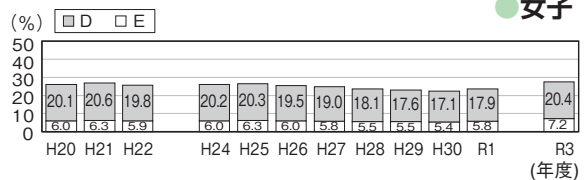
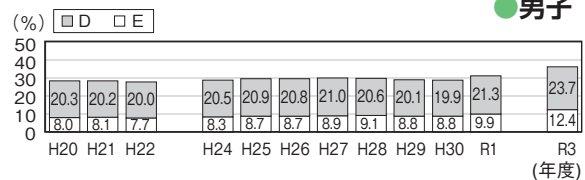
男女ともに総合評価A・B群は、近年増加傾向を示していたが、低下傾向の兆しが見られた令和元年度から低下した。割合の変化に伴い、特に男子は、[D+E（率）]が、[A+B（率）]を上回った。



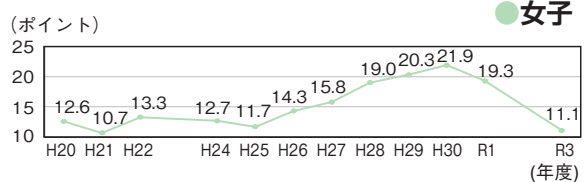
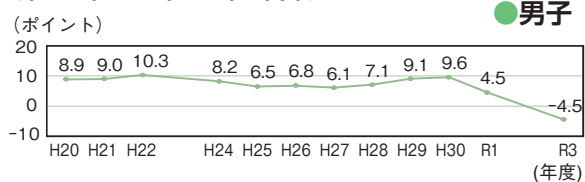
〔A+B（率）〕



〔D+E（率）〕

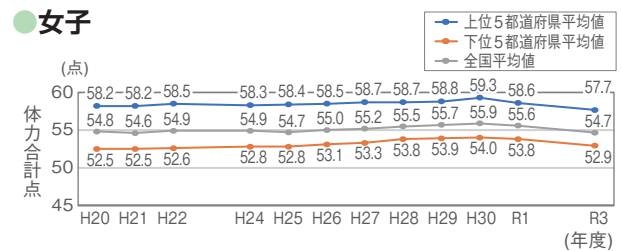
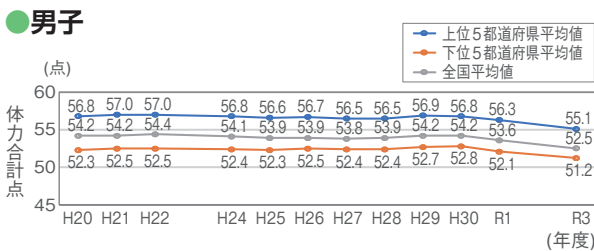


〔(A+B) - (D+E)（率）〕



〈上位・下位の5都道府県の体力合計点の平均値〉

上位・下位の5都道府県の体力合計点の平均値の推移を見ると、令和3年度は男女ともに体力合計点の平均値が低下したが、上位と下位の差に注目すると、男女とも調査開始以来、最も差が縮まった。



上位と下位の差	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3
	4.43	4.52	4.51	4.37	4.25	4.23	4.03	4.06	4.21	4.03	4.21	3.88

上位と下位の差	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3
	5.68	5.72	5.90	5.45	5.52	5.43	5.35	4.91	4.91	5.35	4.82	4.75

※最高値はブルー、最低値はピンクで網掛けしている。

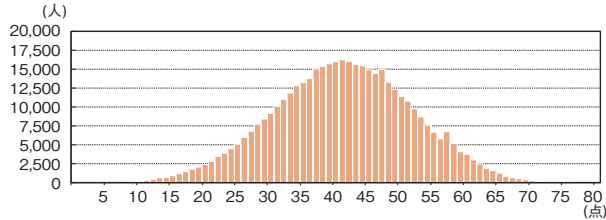
1-2 実技結果と経年変化 (国・公・私立学校)【中学校】

〈実技結果 (令和3年度)〉

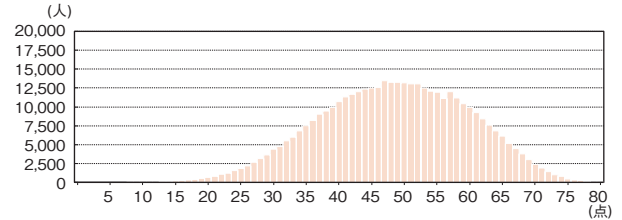
令和3年度調査の体力合計点の平均値は男子が41.05点、女子が48.41点であった。なお、各種目の実技結果の分布、及び、平均値と総合評価の段階別の割合は次のとおりである。

〈体力合計点 (令和3年度)〉

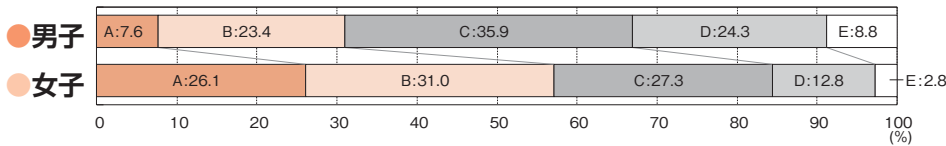
男子	標本数	平均値	標準偏差
	431,174 人	41.05 点	10.57



女子	標本数	平均値	標準偏差
	409,603 人	48.41 点	11.35

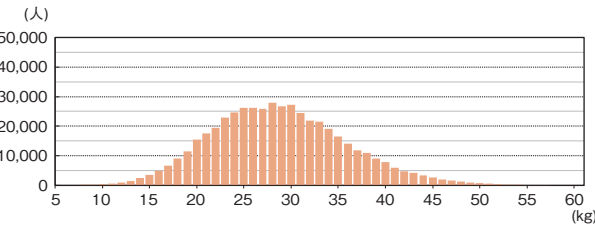


〈総合評価・段階別 (令和3年度)〉

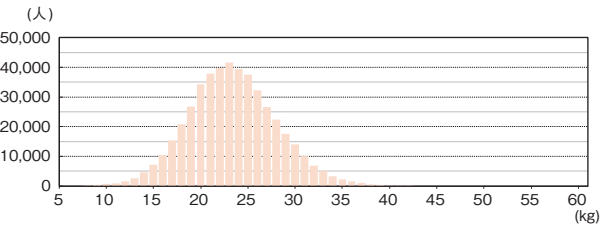


握力

男子	標本数	平均値	標準偏差
	489,991 人	28.78kg	7.20

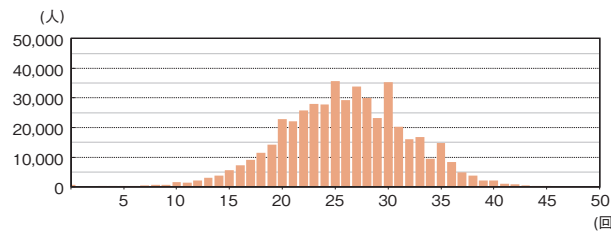


女子	標本数	平均値	標準偏差
	466,049 人	23.38kg	4.66

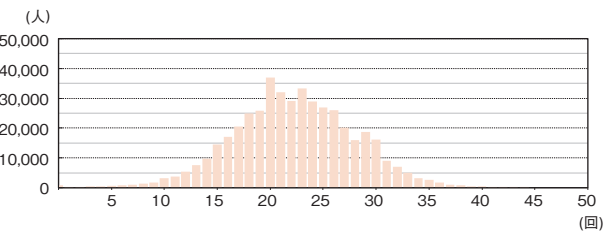


上体起こし

男子	標本数	平均値	標準偏差
	480,393 人	25.89 回	6.19

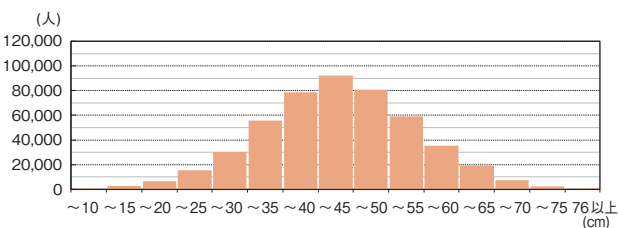


女子	標本数	平均値	標準偏差
	456,377 人	22.22 回	5.83

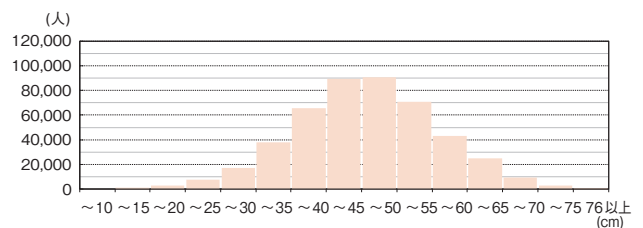


長座体前屈

男子	標本数	平均値	標準偏差
	486,629 人	43.58cm	10.88

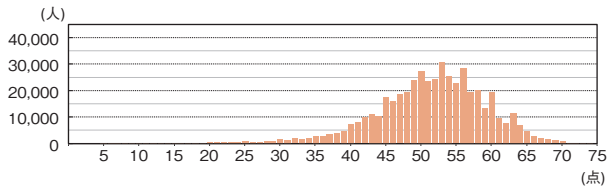


女子	標本数	平均値	標準偏差
	463,749 人	46.20cm	10.19

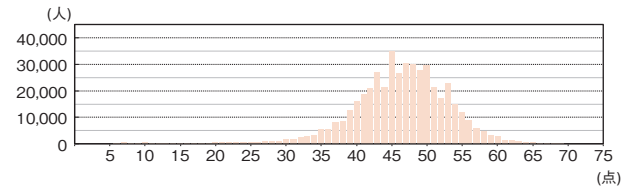


反復横とび

男子	標本数	平均値	標準偏差
●	483,001人	51.17点	8.44

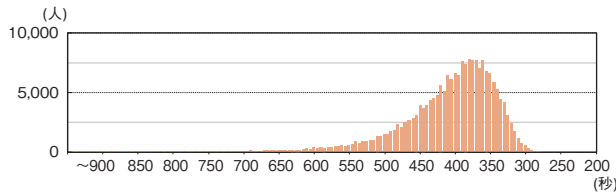


女子	標本数	平均値	標準偏差
●	460,124人	46.25点	6.98

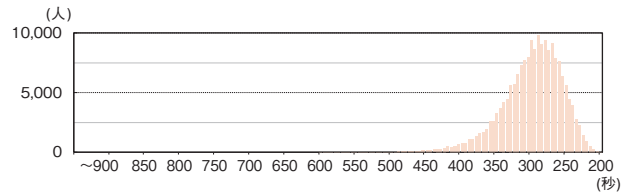


持久走 (男子 1500 m、女子 1000 m)

男子	標本数	平均値	標準偏差
●	197,069人	407.22秒	70.76

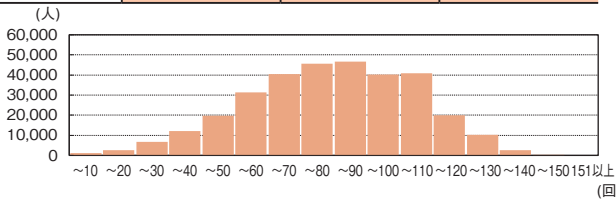


女子	標本数	平均値	標準偏差
●	186,098人	298.34秒	46.27

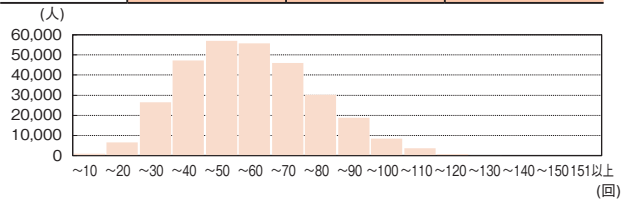


20m シャトルラン

男子	標本数	平均値	標準偏差
●	321,027人	79.45回	25.34

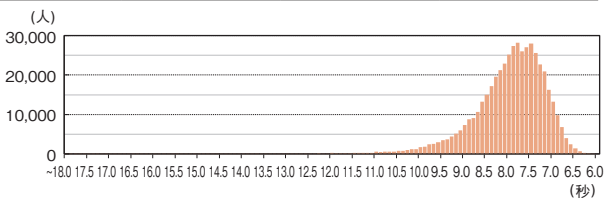


女子	標本数	平均値	標準偏差
●	302,202人	53.92回	19.84

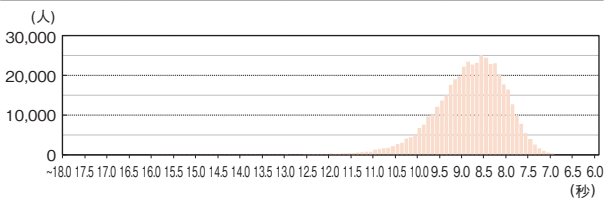


50m 走

男子	標本数	平均値	標準偏差
●	478,510人	8.01秒	0.91

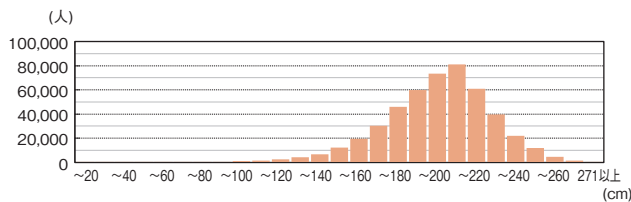


女子	標本数	平均値	標準偏差
●	453,917人	8.88秒	0.84

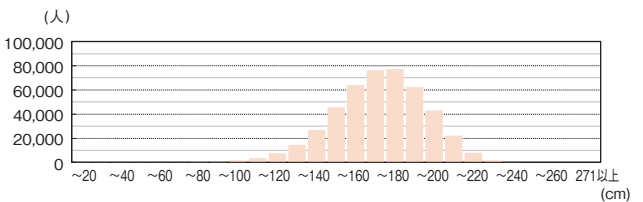


立ち幅とび

男子	標本数	平均値	標準偏差
●	482,545人	196.31cm	29.35

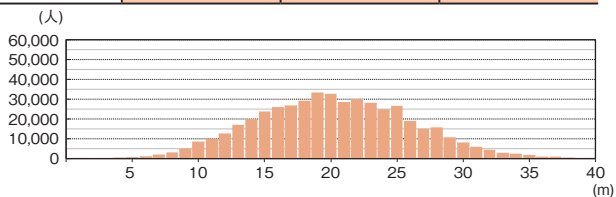


女子	標本数	平均値	標準偏差
●	459,400人	168.00cm	25.09

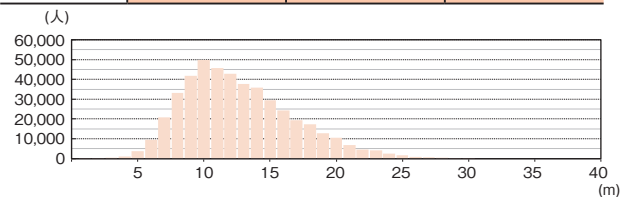


ハンドボール投げ

男子	標本数	平均値	標準偏差
●	480,725人	20.24m	5.91



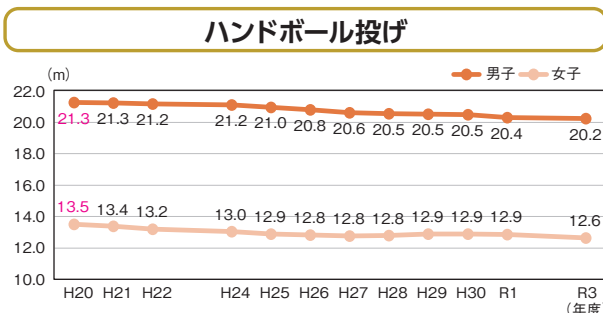
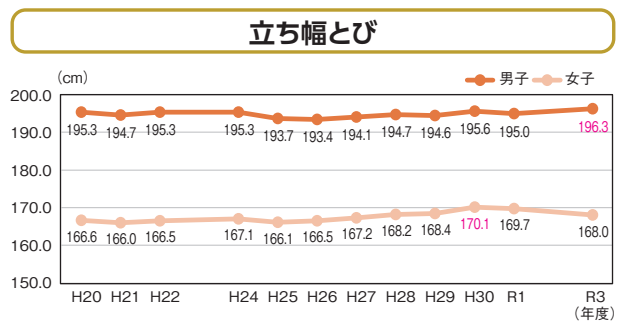
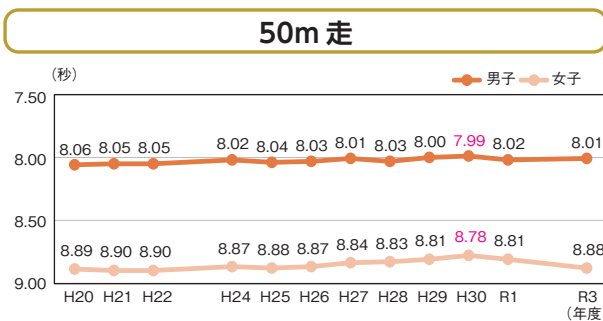
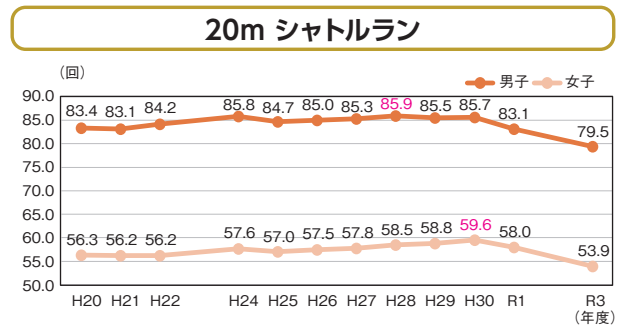
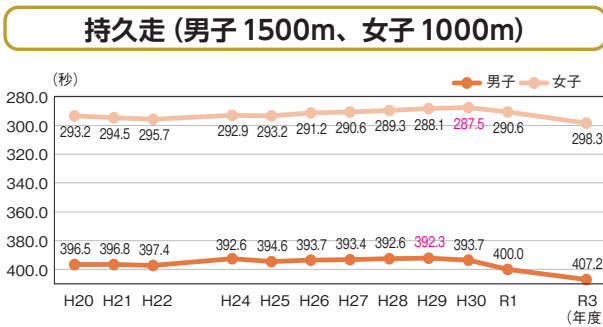
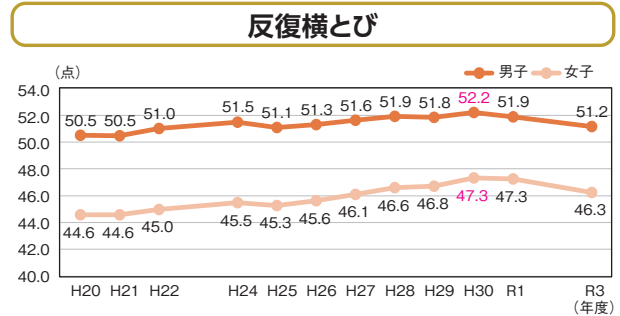
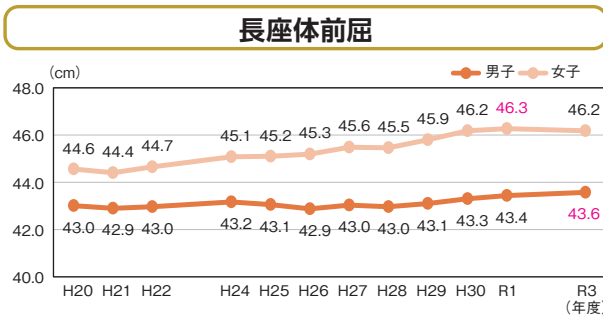
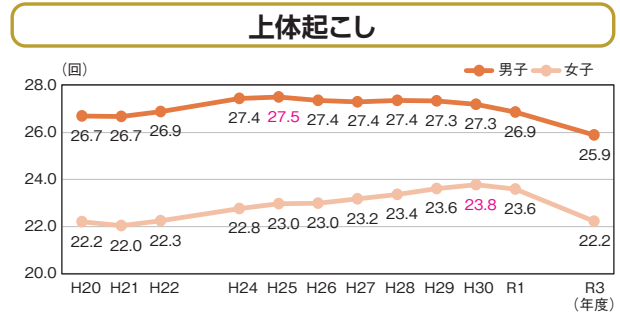
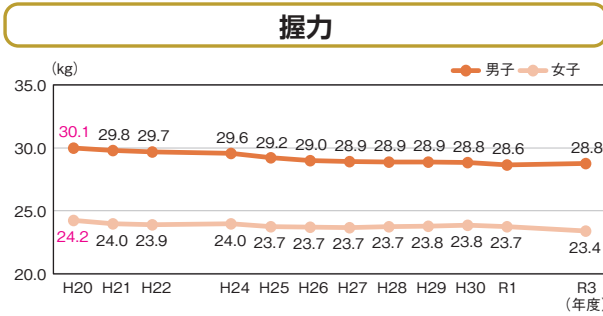
女子	標本数	平均値	標準偏差
●	458,761人	12.64m	4.19



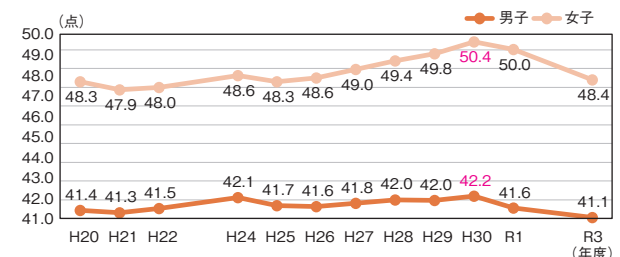
〈各種目の経年変化〉

種目別に見ると、男女ともに令和元年度に比べ、「上体起こし」、「反復横とび」、「20mシャトルラン」「持久走」で大きく低下した一方、男子は「握力」、「長座体前屈」、「50m走」、「立ち幅とび」が向上した。また、体力合計点については、男女とも体力低下の兆しが見られた令和元年度から低下した。

※赤い数値は最高値（小数点第2位までの比較）



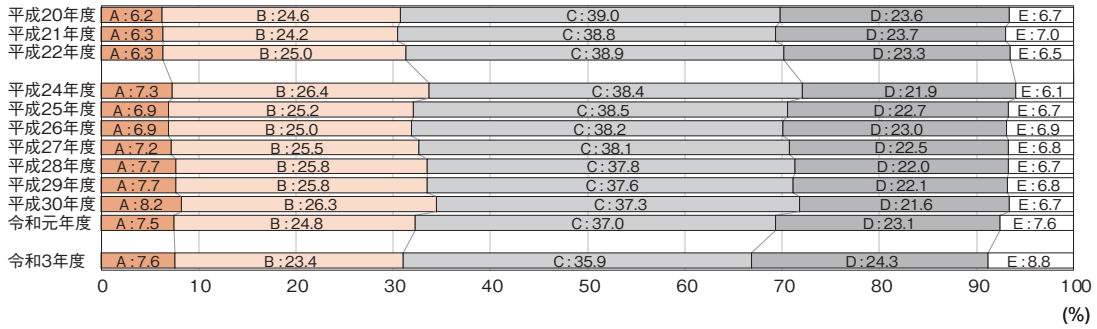
〈体力合計点の経年変化〉



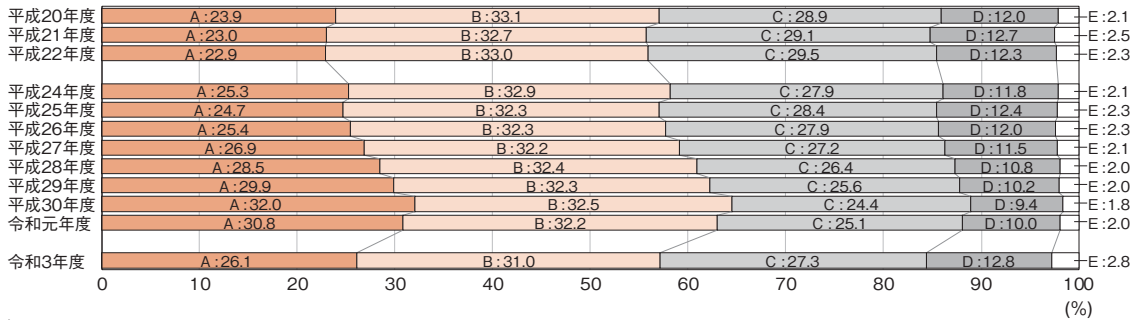
〈総合評価（段階別）の経年変化〉

男女ともに総合評価A・B群は、近年増加傾向を示していたが、低下傾向の兆しが見られた令和元年度から低下した。割合の変化に伴い、特に男子では、[D+E（率）]が、[A+B（率）]を上回った。

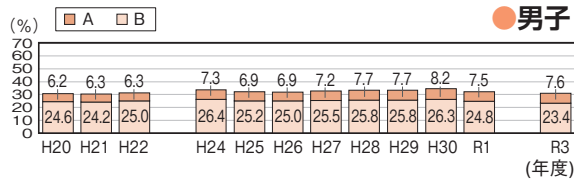
●男子



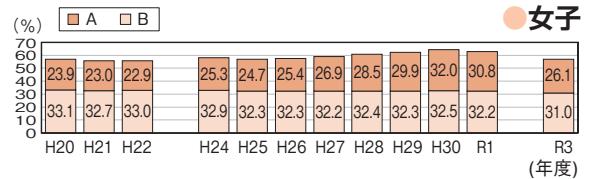
●女子



[A+B（率）]

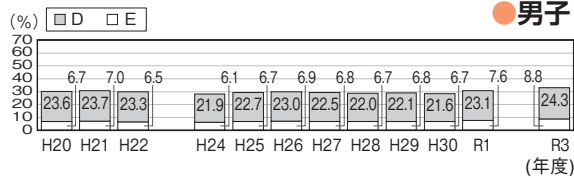


●男子

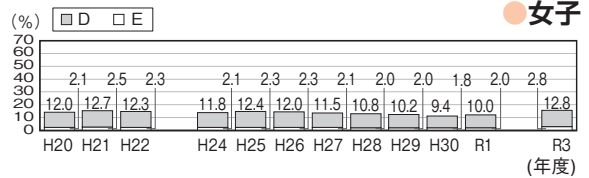


●女子

[D+E（率）]

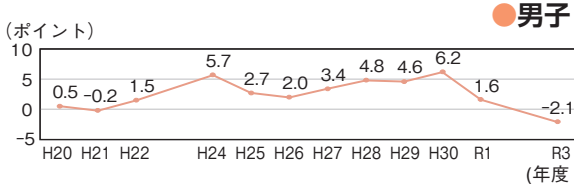


●男子

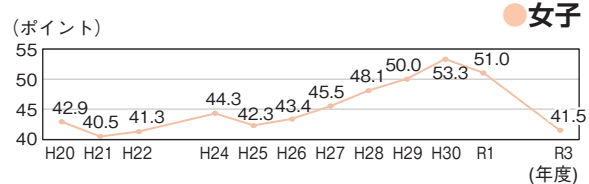


●女子

[(A+B) - (D+E)（率）]



●男子

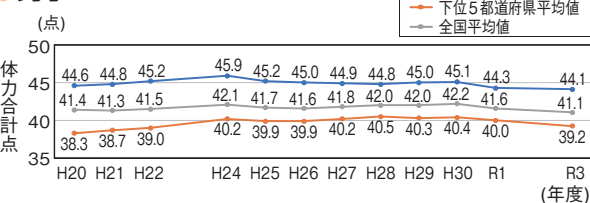


●女子

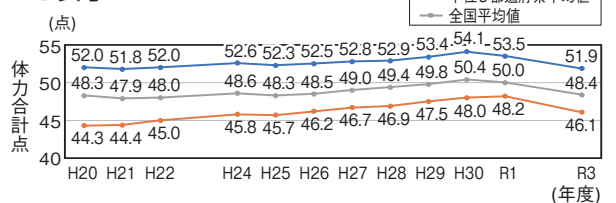
〈上位・下位の5都道府県の体力合計点の平均値〉

上位・下位の5都道府県の体力合計点の平均値の推移を見ると、令和3年度は、男女ともに体力合計点の平均値が低下したが、上位と下位の差に注目すると、男女ともにその差が広がった。

●男子



●女子



上位と下位の差	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3
男子	6.37	6.11	6.27	5.56	5.31	5.07	4.71	4.29	4.75	4.69	4.29	4.86

上位と下位の差	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3
女子	7.71	7.44	7.04	6.89	6.57	6.32	6.10	6.06	5.86	6.13	5.33	5.78

※最高値はブルー、最低値はピンクで網掛けしている。

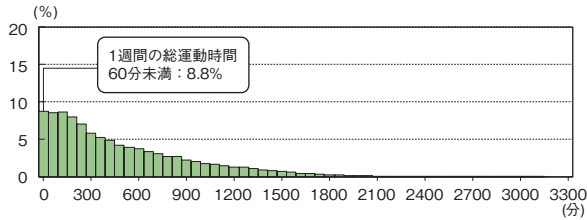
2 1週間の総運動時間と体力・運動能力

2-1 1週間の総運動時間の分布・内訳・体力合計点との関連【小学校】

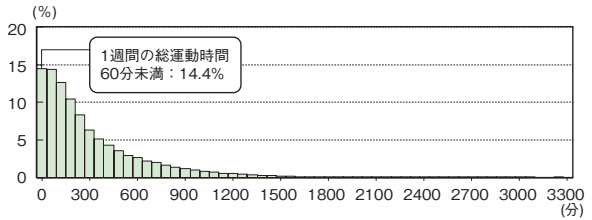
令和3年度調査の体育の授業を除く1週間の総運動時間は、60分未満の割合は男子8.8%、女子14.4%であった。また、1週間で420分以上運動している児童の割合は減少した。

〈1〉 1週間の総運動時間の分布

●男子

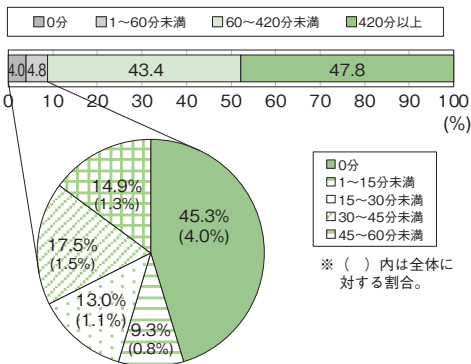


●女子

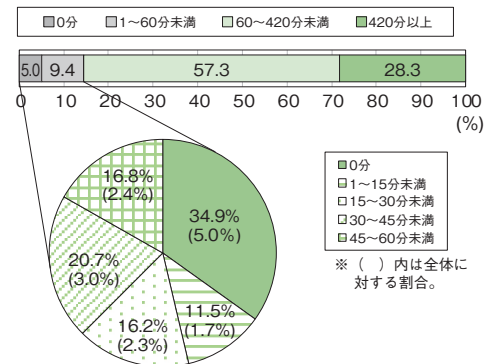


〈2〉 1週間の総運動時間別の児童の割合

●男子

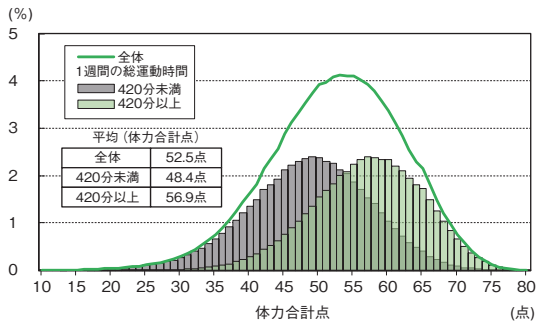


●女子

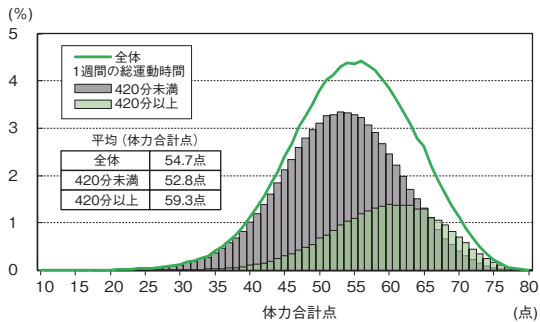


〈3〉 1週間の総運動時間と体力合計点との関連

●男子

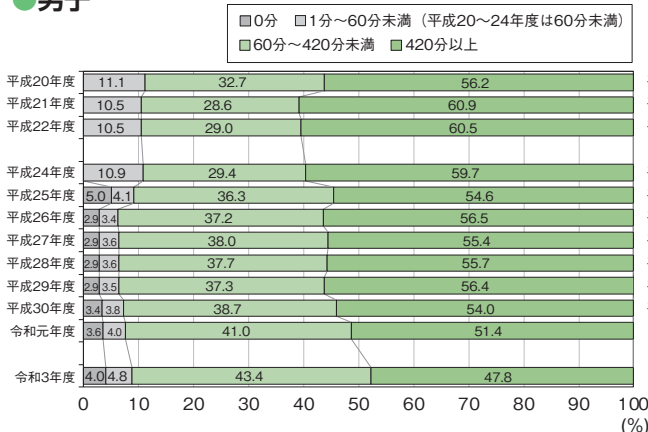


●女子

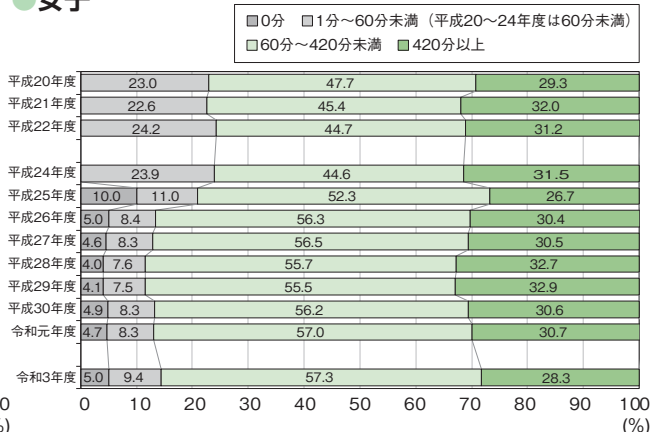


〈4〉 1週間の総運動時間の経年変化 ※平成20~24年度は、旧算出基準 (p6参照) による。平成25年度以降は、各曜日の運動時間の合計。

●男子



●女子

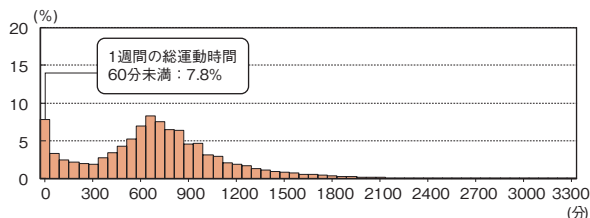


2-2 1週間の総運動時間の分布・内訳・体力合計点との関連【中学校】

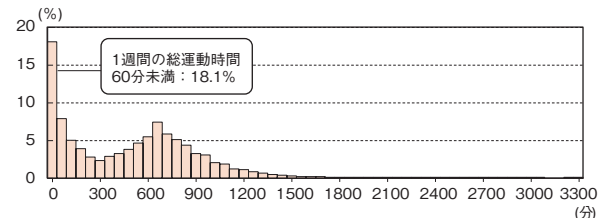
令和3年度調査の保健体育の授業を除く1週間の総運動時間は、60分未満の割合は男子7.8%、女子18.1%であった。また、1週間で420分以上運動している生徒の割合は減少した。

〈1〉1週間の総運動時間の分布

●男子

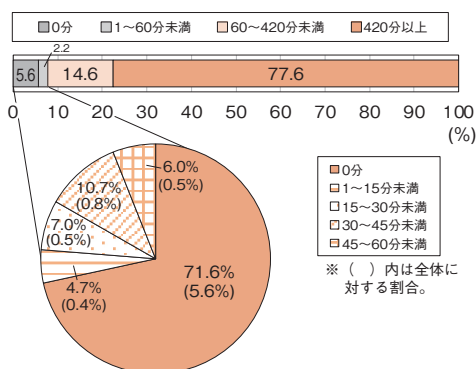


●女子

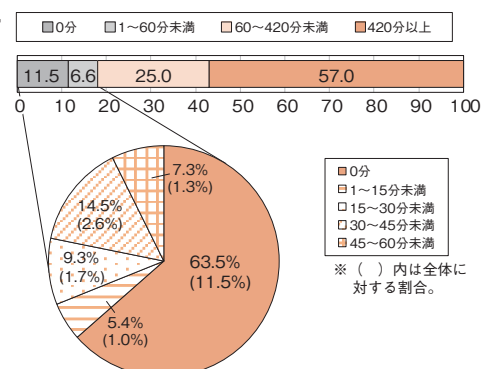


〈2〉1週間の総運動時間別の生徒の割合

●男子

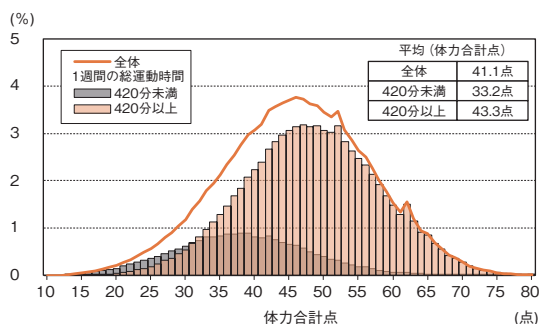


●女子

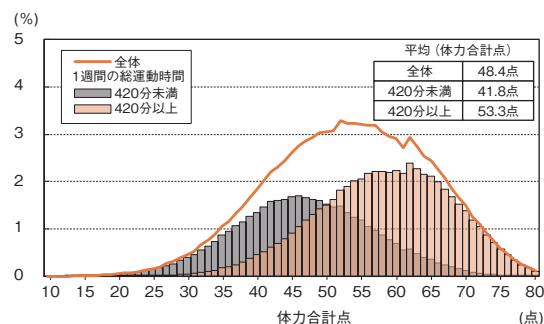


〈3〉1週間の総運動時間と体力合計点との関連

●男子



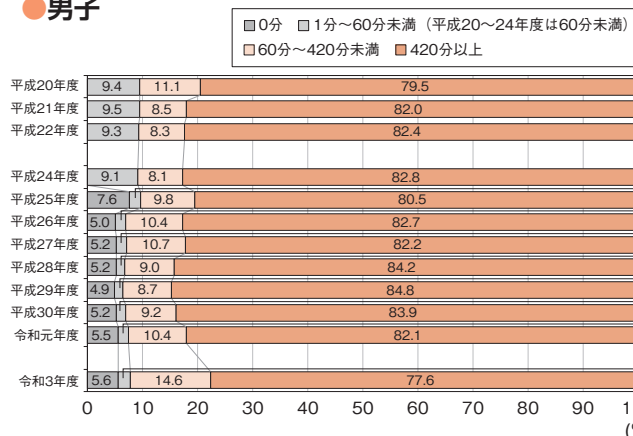
●女子



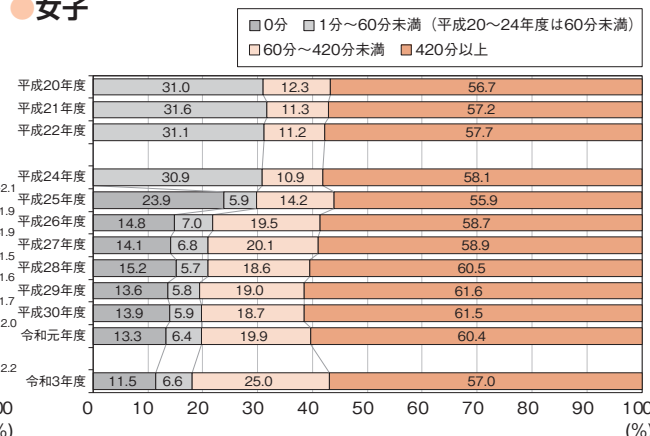
〈4〉1週間の総運動時間の経年変化

※平成20~24年度は、旧算出基準(p6参照)による。平成25年度以降は、各曜日の運動時間の合計。

●男子



●女子



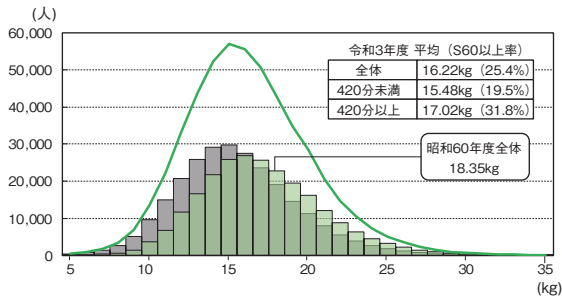
2-3 1週間の総運動時間から見た昭和60年度の平均値以上となった児童の割合【小学校】

旧スポーツテストと共通する次の4つの各種目について、令和3年度調査の1週間の総運動時間が420分以上の児童のグループは、昭和60年度調査の平均値※以上である児童の割合が420分未満の児童のグループより高かった。

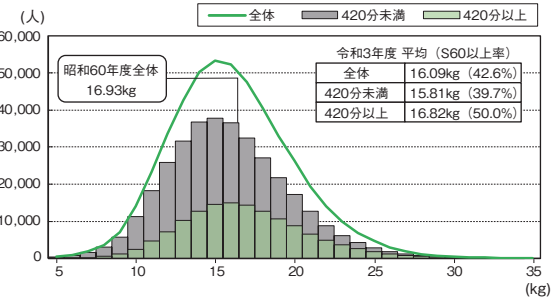
※「体力・運動能力調査」年齢別テストの結果、10歳の平均値

握力

●男子

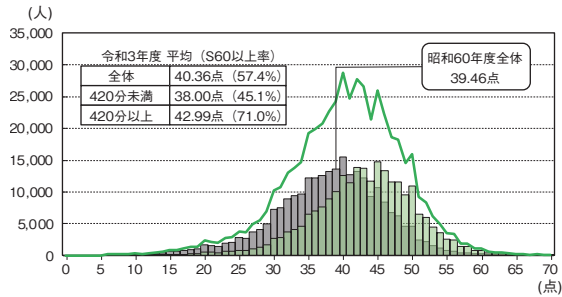


●女子

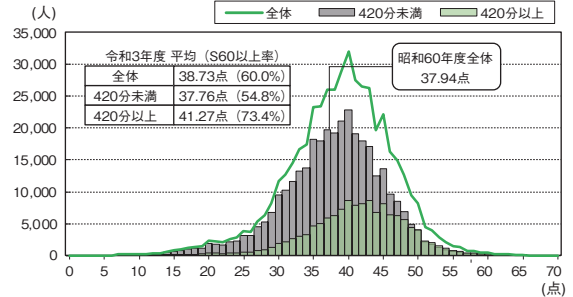


反復横とび

●男子

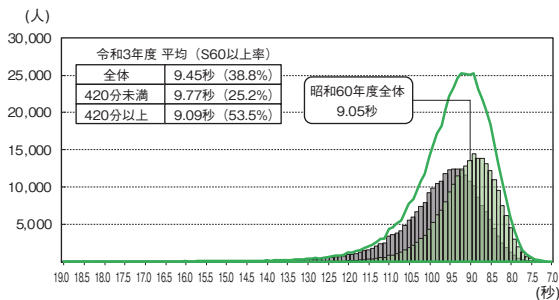


●女子

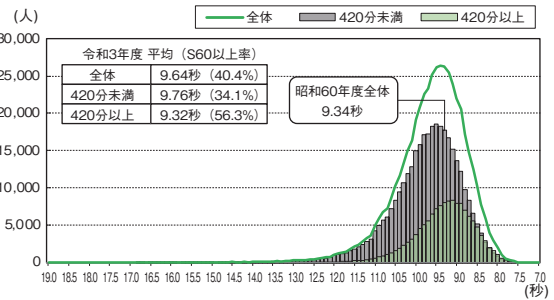


50m走

●男子

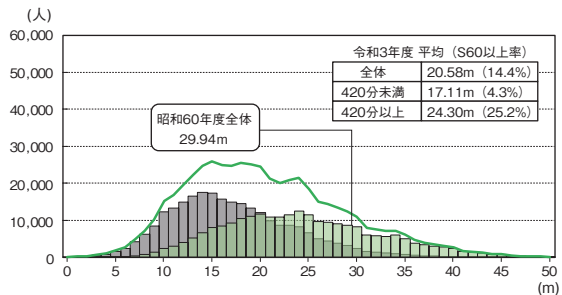


●女子

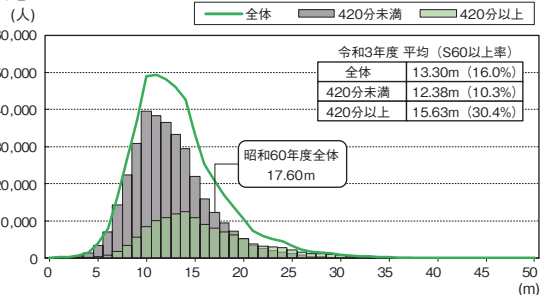


ソフトボール投げ

●男子



●女子



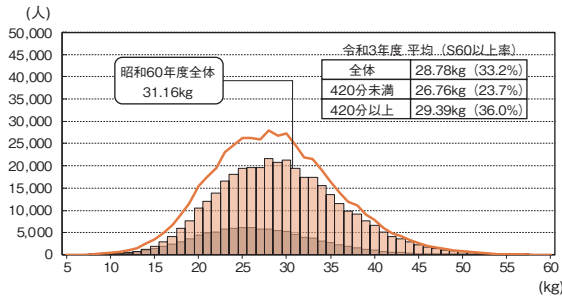
2-4 1週間の総運動時間から見た昭和60年度の平均値以上となった生徒の割合【中学校】

旧スポーツテストと共通する次の4つの各種目について、令和3年度調査の1週間の総運動時間が420分以上の生徒のグループは、昭和60年度調査の平均値※以上である生徒の割合が420分未満の生徒のグループより高かった。

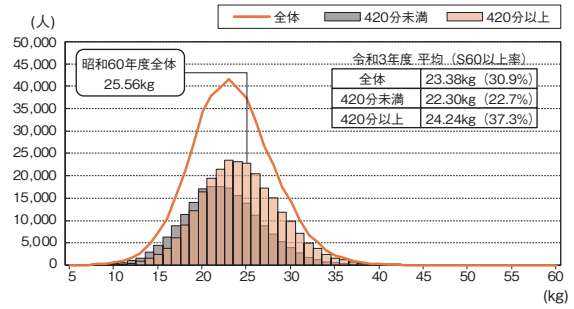
※「体力・運動能力調査」年齢別テストの結果、13歳の平均値

握力

男子

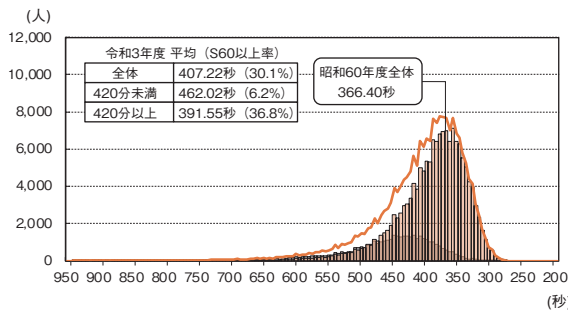


女子

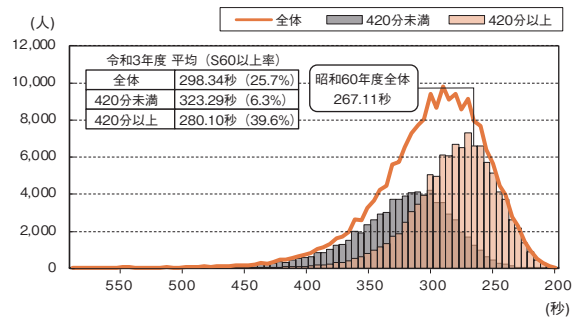


持久走(男子 1500 m、女子 1000 m)

男子

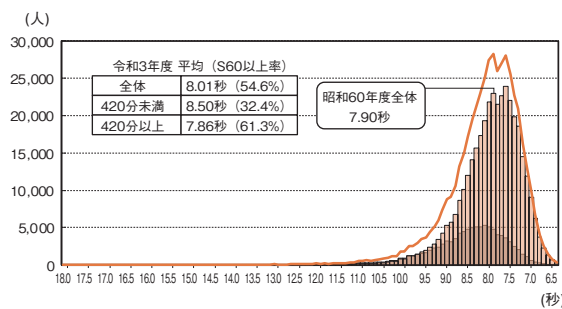


女子

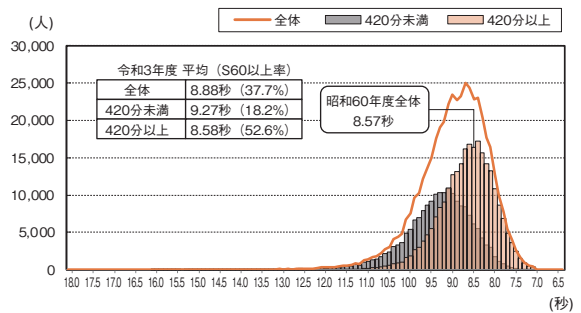


50m 走

男子

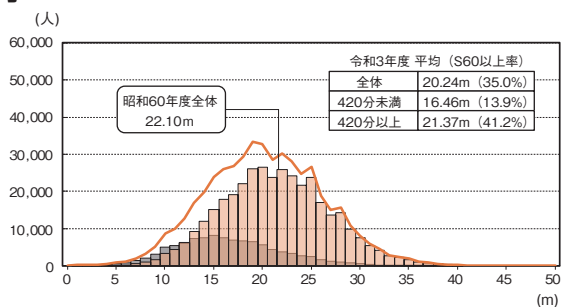


女子

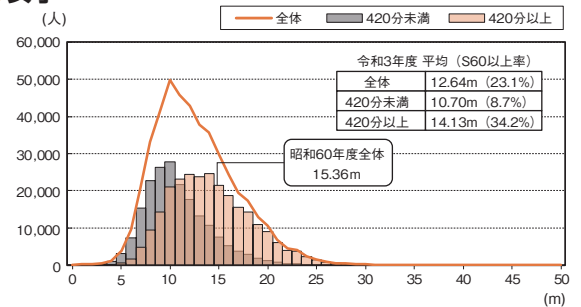


ハンドボール投げ

男子



女子

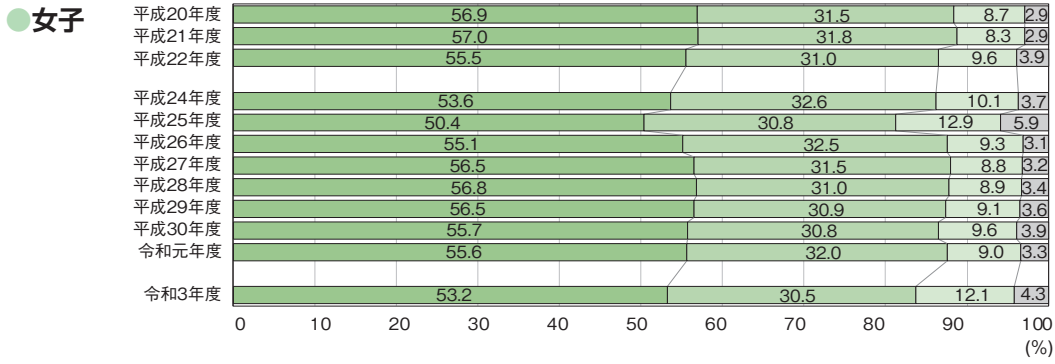
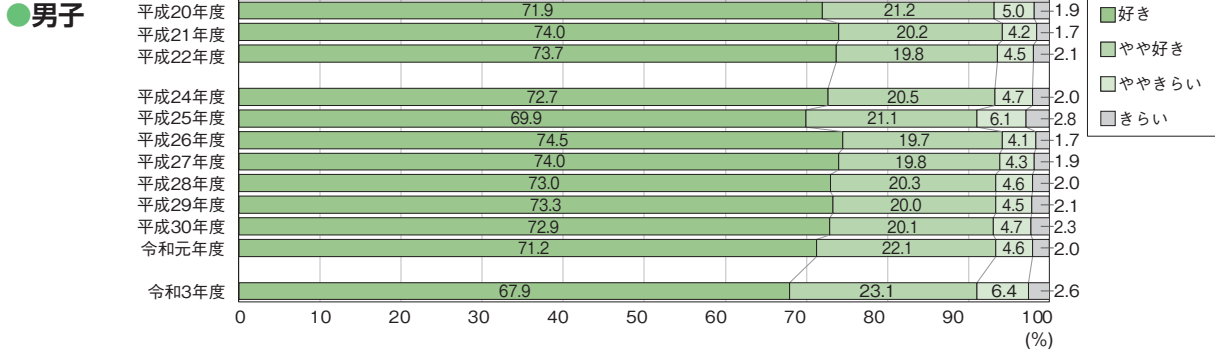


3 運動やスポーツに対する意識

3-1 運動やスポーツをすることが好き・きらい【小学校】

運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と回答した児童の割合は、平成25年度に次いで、男女とも低い割合となった。

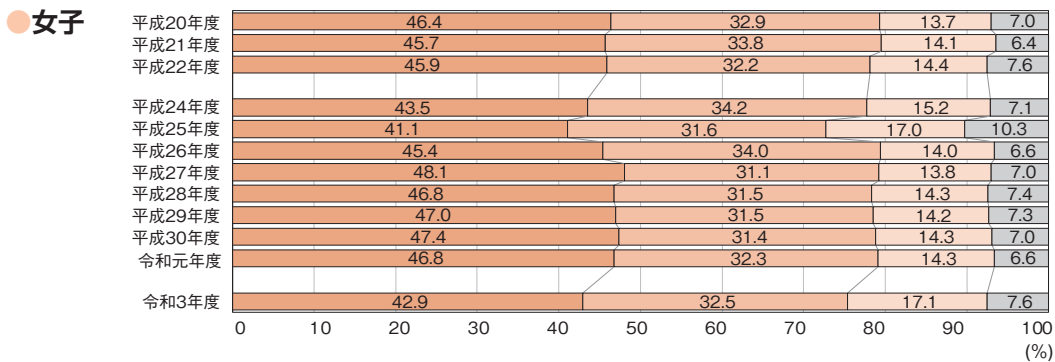
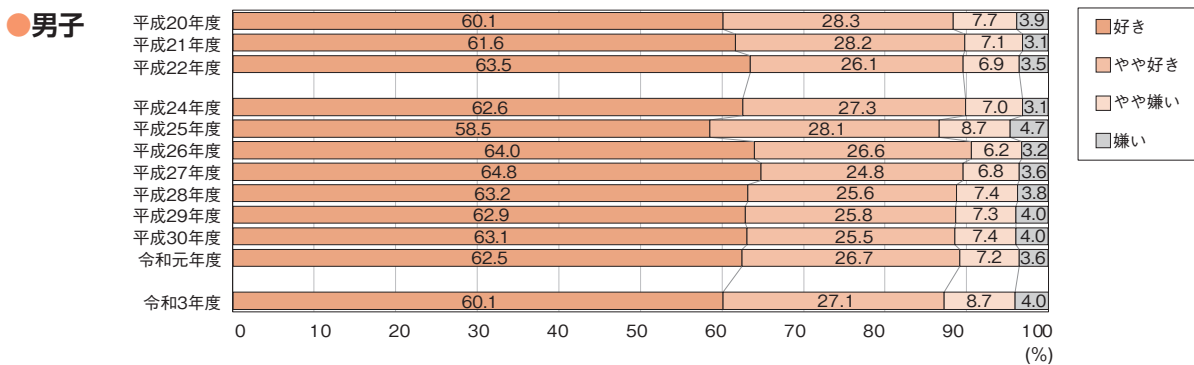
〔「好き・きらい」の経年変化〕



3-2 運動やスポーツをすることが好き・嫌い【中学校】

運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と回答した生徒の割合は、平成25年度に次いで、男女とも低い割合となった。

〔「好き・嫌い」の経年変化〕

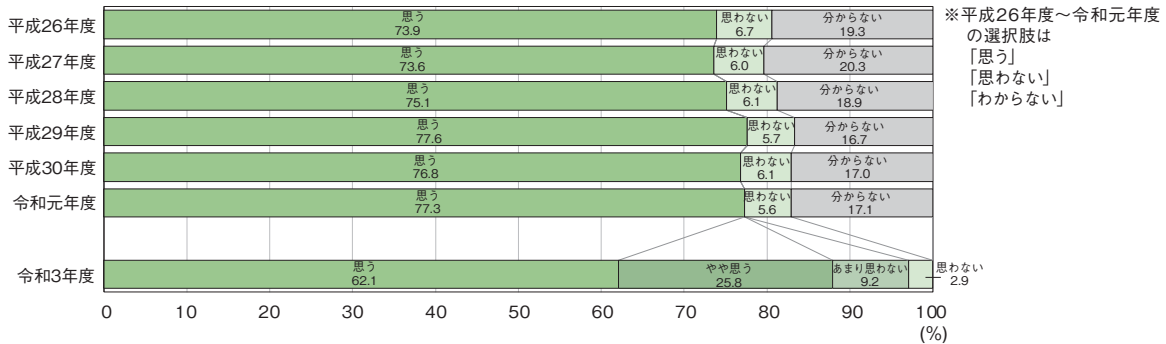


3-3 卒業後の運動への意欲【小学校】

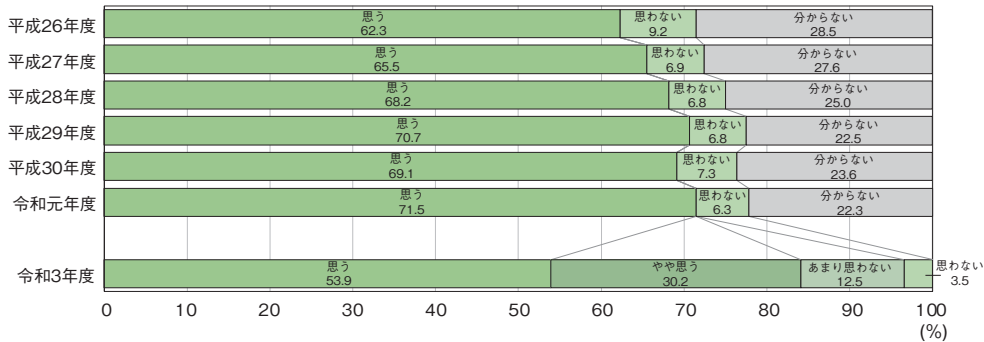
卒業しても運動する時間を持ちたいと「思う」と回答した児童の割合は、男子は62.1%、女子は53.9%であった。

〔卒業しても運動する時間を持ちたい〕の経年変化)

●男子



●女子

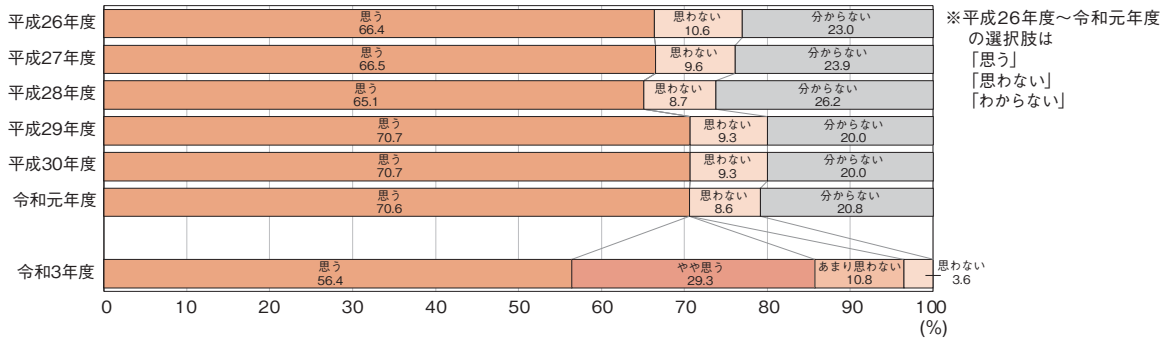


3-4 卒業後の運動への意欲【中学校】

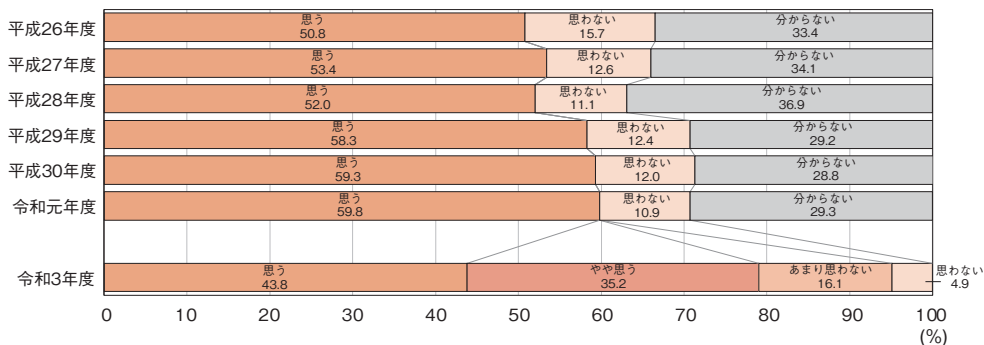
卒業しても運動する時間を持ちたいと「思う」と回答した生徒の割合は、男子は56.4%、女子は43.8%であった。

〔卒業しても運動する時間を持ちたい〕の経年変化)

●男子



●女子



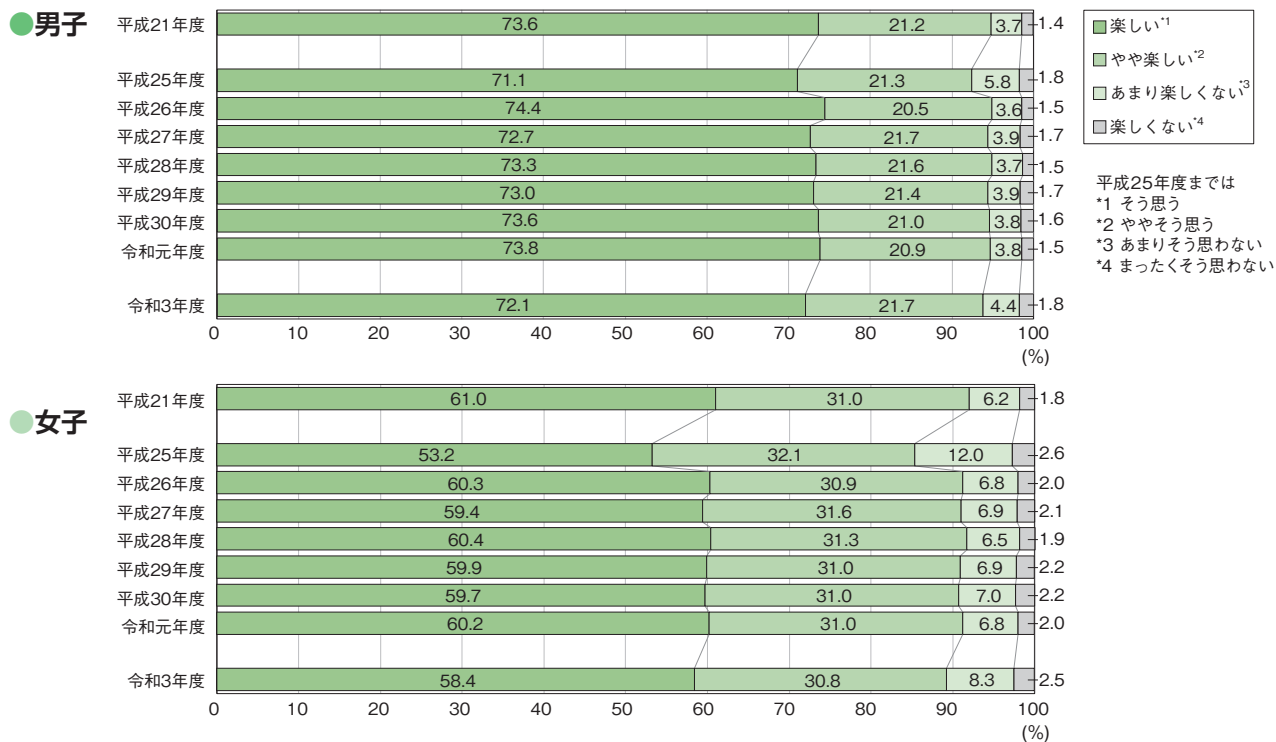
4 体育・保健体育の授業に対する意識

4-1 体育の授業は楽しい【小学校】

「体育の授業が楽しいと思う」児童の割合は、平成25年度を除き、男女とも大きな変化は見られなかった。

「体育の授業は楽しい」の経年変化)

※平成20、22、24年度は、該当する質問項目がない。

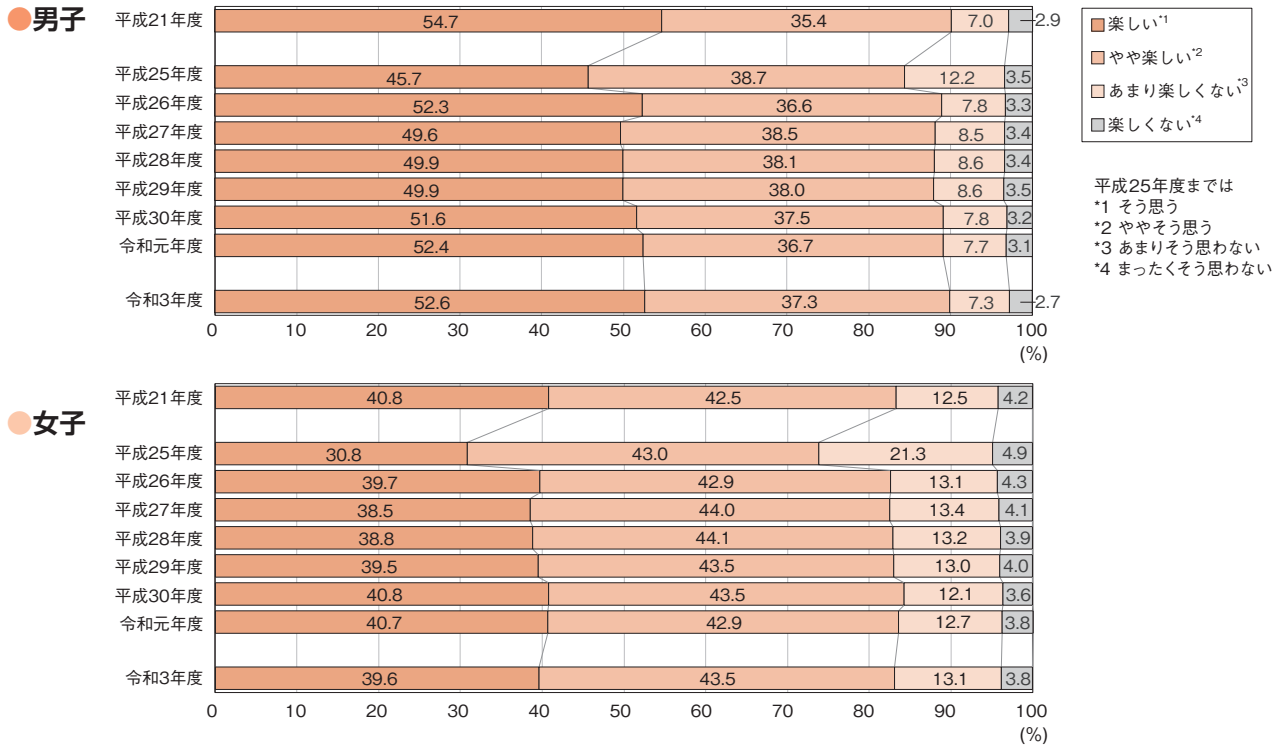


4-2 保健体育の授業は楽しい【中学校】

「保健体育の授業が楽しいと思う」生徒の割合は、平成25年度を除き、男女とも大きな変化は見られなかった。

「保健体育の授業は楽しい」の経年変化)

※平成20、22、24年度は、該当する質問項目がない。



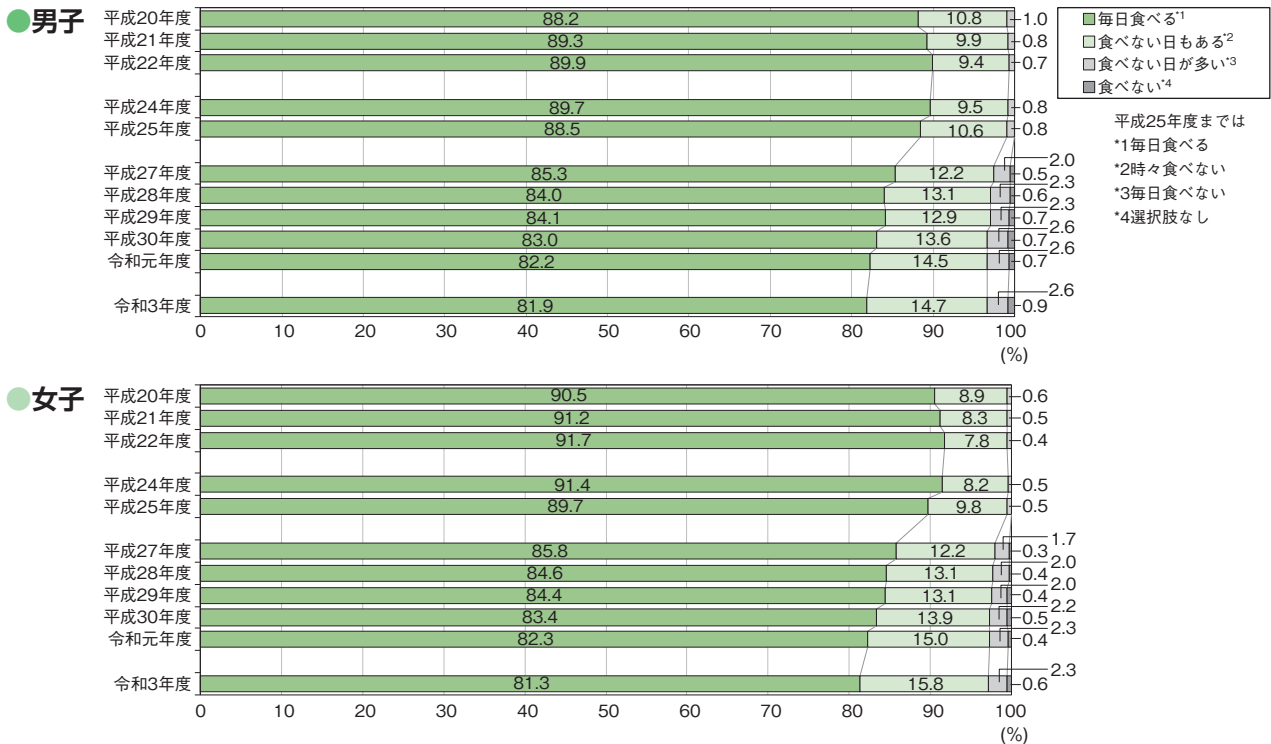
5 生活習慣と体力

5-1 食事・睡眠と体力との関連【小学校】

規則正しい生活習慣の要素である食事の摂取状況と1日の睡眠時間の経年変化を見ると、朝食に関しては「毎日食べる」と回答した児童の割合は男女とも平成24年度以降、減少している。睡眠時間に関しては8時間以上の児童の割合が、増加傾向であったが、令和3年度は6時間以上8時間未満の割合が増加している。また、男女ともに、朝食を「毎日食べる」グループが最も体力合計点が高く、睡眠時間では「8時間以上9時間未満」グループが最も体力合計点が高い。

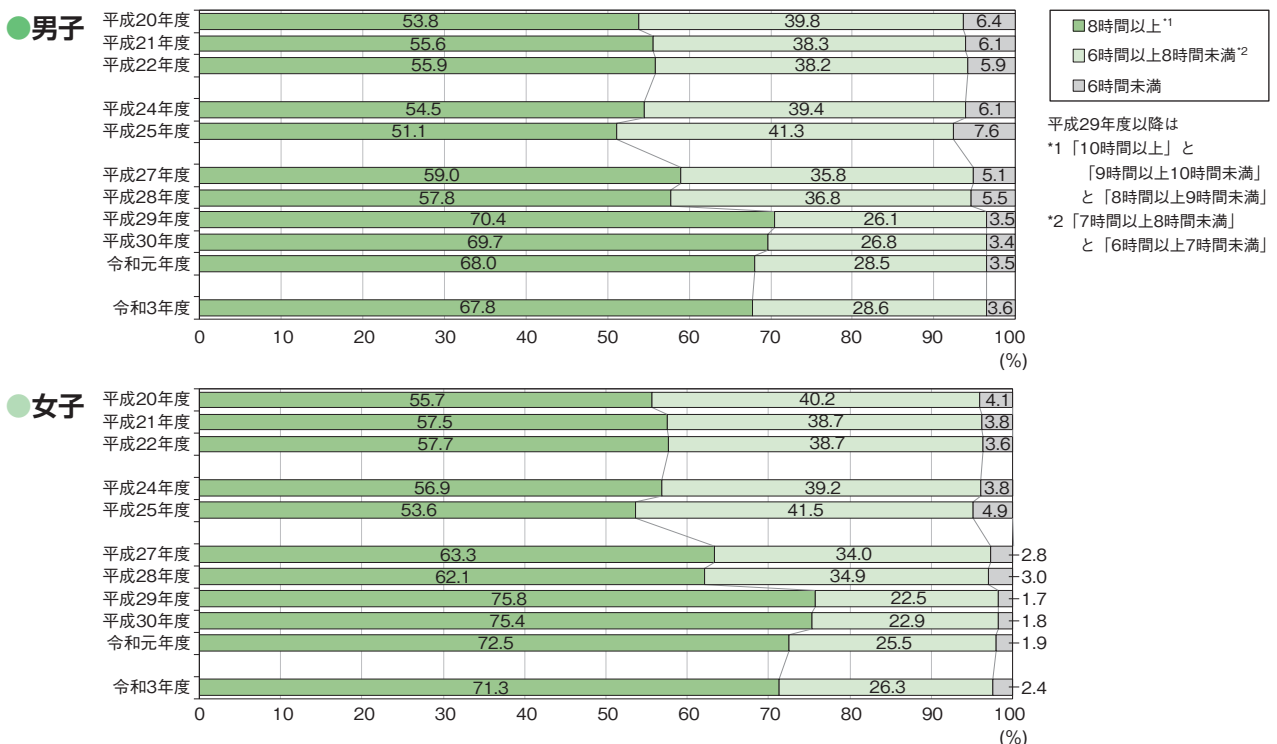
【朝食の摂取状況の経年変化】

※平成26年度は、該当する質問項目がない。



【1日の睡眠時間の経年変化】

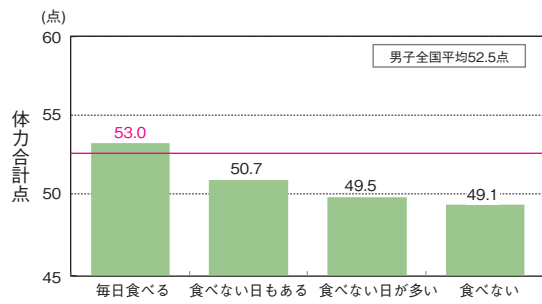
※平成26年度は、該当する質問項目がない。



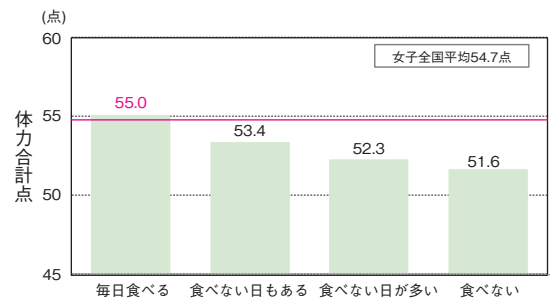
〔食事・睡眠時間と体力合計点との関連〕

朝食

●男子

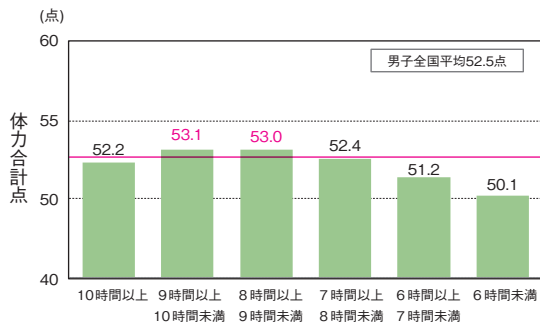


●女子

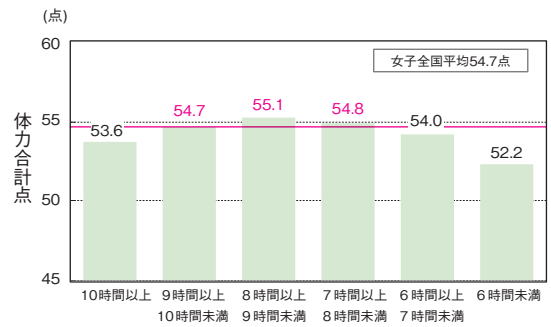


睡眠時間

●男子



●女子

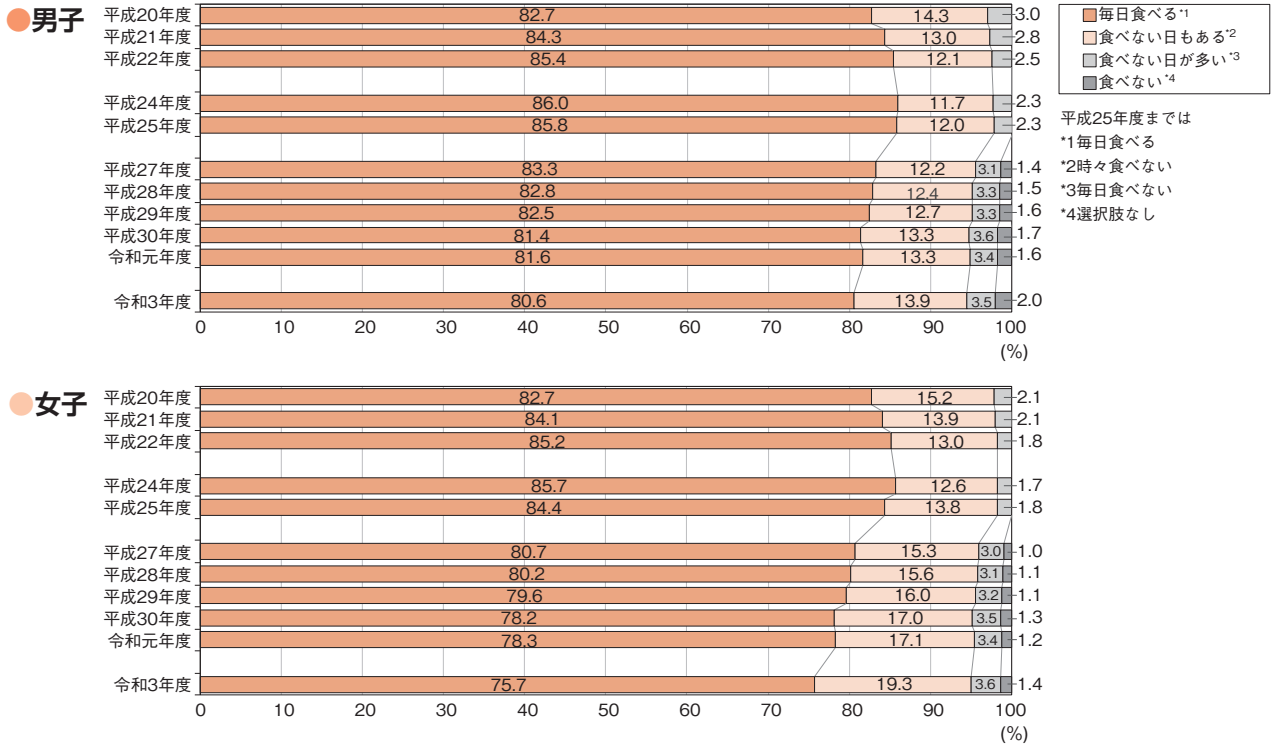


5-2 食事・睡眠と体力との関連 [中学校]

規則正しい生活習慣の要素である食事の摂取状況と1日の睡眠時間の経年変化を見ると、朝食に関しては「毎日食べる」と回答した生徒の割合は男女とも平成24年度以降、減少している。睡眠時間に関しては8時間以上の生徒の割合が、増加傾向であったが、令和3年度は令和元年度と比較して大きな変化は無かった。また、男女ともに、朝食を「毎日食べる」グループが最も体力合計点が高く、睡眠時間では「7時間以上8時間未満」グループが最も体力合計点が高い。

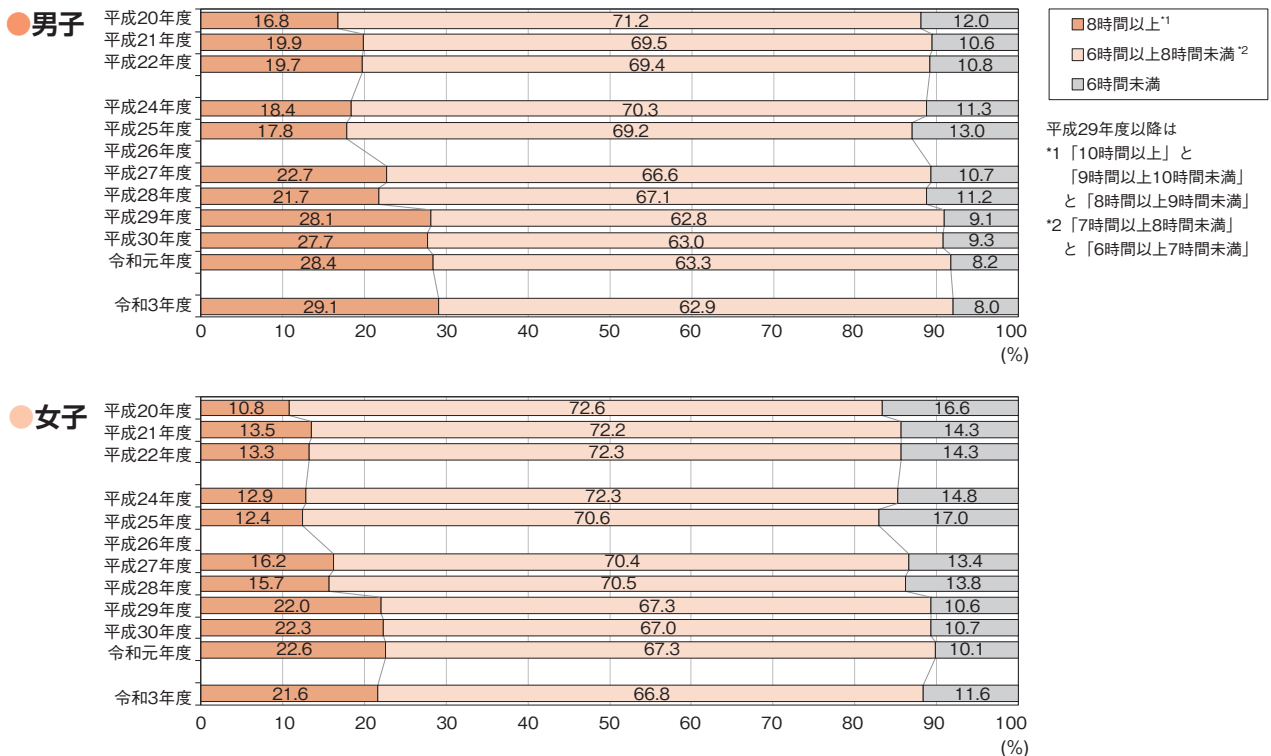
〔朝食の摂取状況の経年変化〕

※平成26年度は、該当する質問項目がない。



〔1日の睡眠時間の経年変化〕

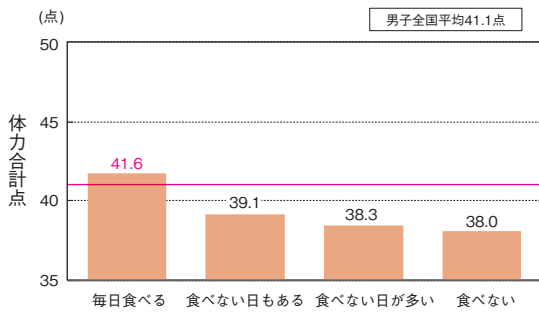
※平成26年度は、該当する質問項目がない。



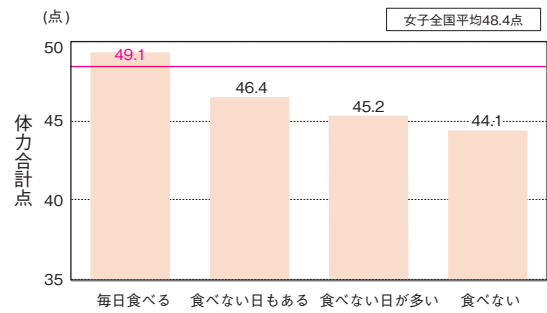
〔食事・睡眠時間と体力合計点との関連〕

朝食

●男子

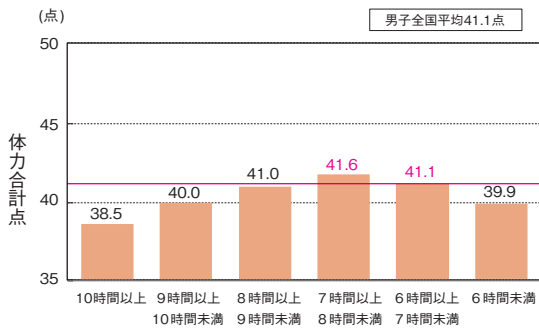


●女子

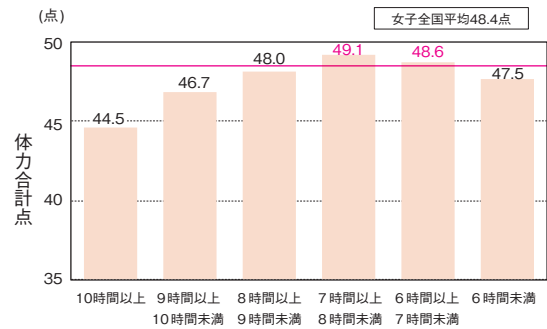


睡眠時間

●男子



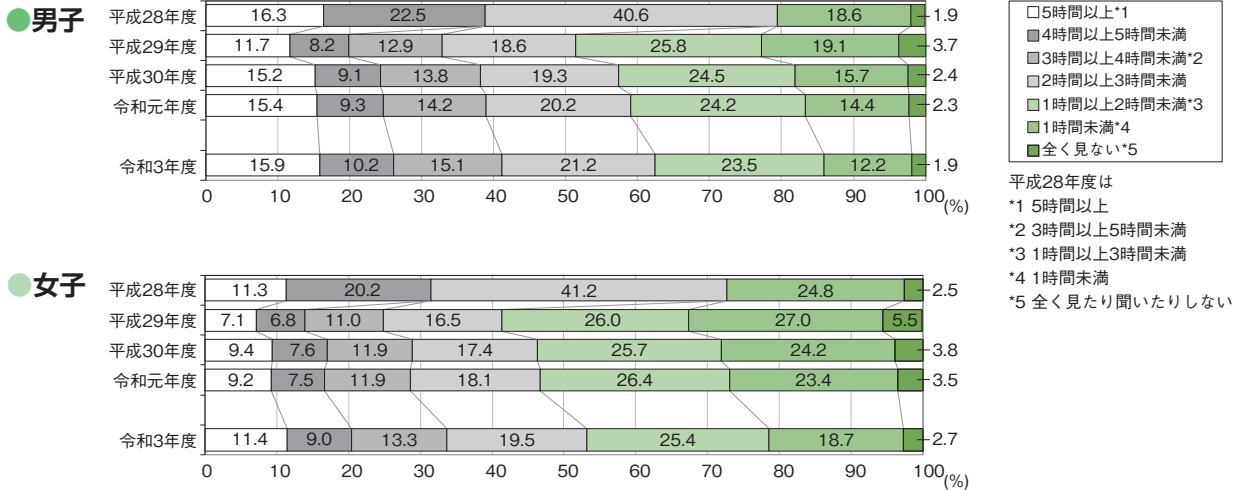
●女子



5-3 学習以外でテレビやゲームの画面を見る時間と体力との関連【小学校】

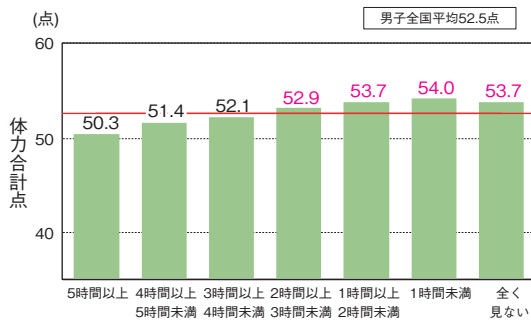
テレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等による映像の視聴時間の経年変化を見ると、視聴時間が2時間以上の割合が増えている。また、体力合計点を比較してみると、男女とも視聴時間が3時間未満のグループの体力合計点は全国の平均値より高い。

〔テレビやゲームの画面を見る時間の経年変化〕

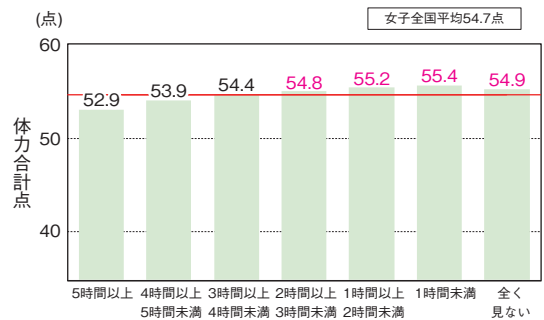


〔テレビやゲームの画面を見る時間と体力合計点との関連〕

●男子



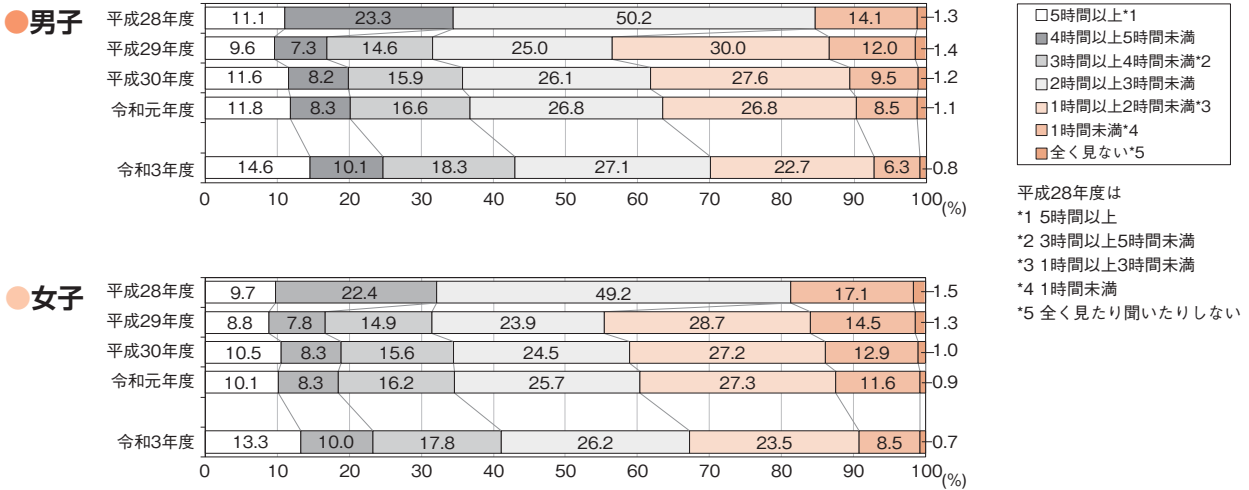
●女子



5-4 学習以外でテレビやゲームの画面を見る時間と体力との関連【中学校】

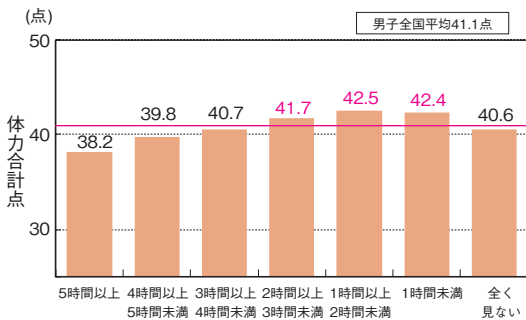
テレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等による映像の視聴時間の経年変化を見ると、視聴時間が2時間以上の割合が増えている。また、体力合計点を比較してみると、男女とも視聴時間が3時間未満のグループの体力合計点は全国の平均値より高い。

〔テレビやゲームの画面を見る時間の経年変化〕

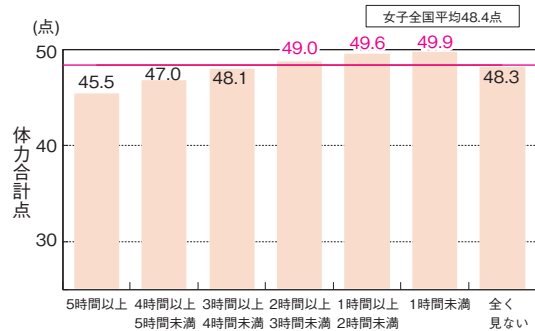


〔テレビやゲームの画面を見る時間と体力合計点との関連〕

男子



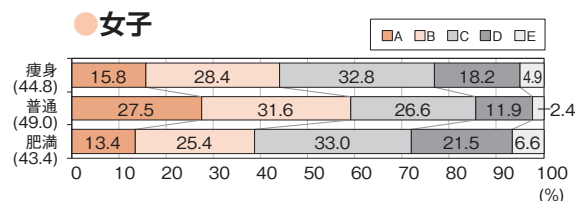
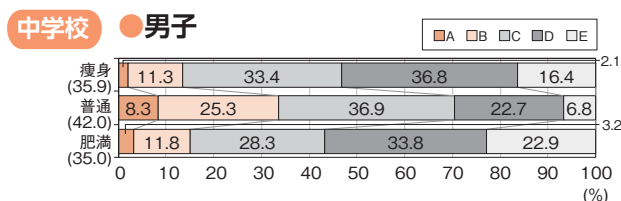
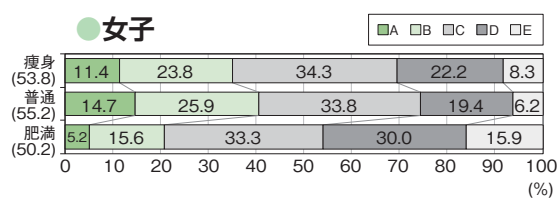
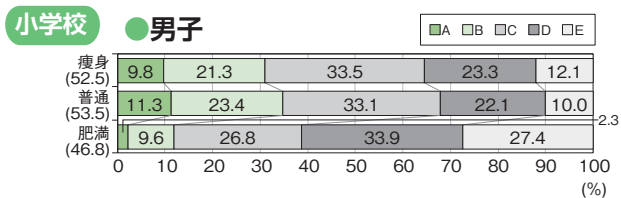
女子



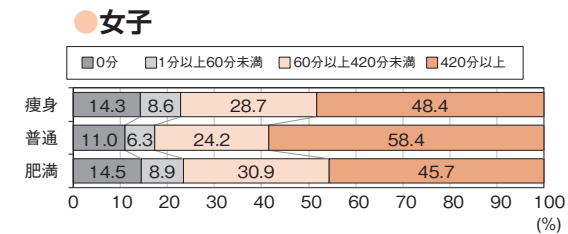
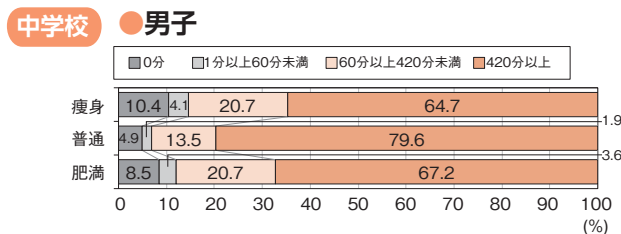
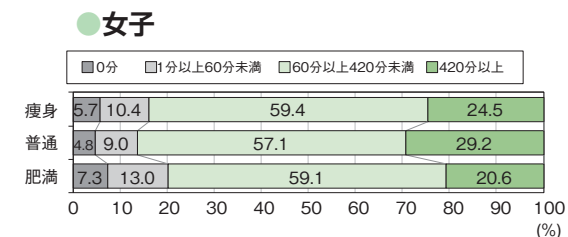
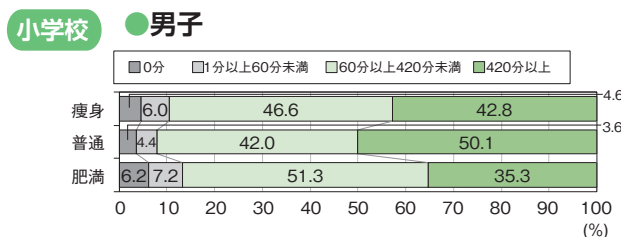
6 体格と体力、運動習慣

体格が肥満の児童生徒は、普通の児童生徒と比べて、総合評価A・B群の割合が低く、D・E群の割合が高い。1週間の総運動時間が60分未満（0分を含む）の割合も高い。また、肥満傾向児の出現率は小中学校男女ともに増加傾向にある。

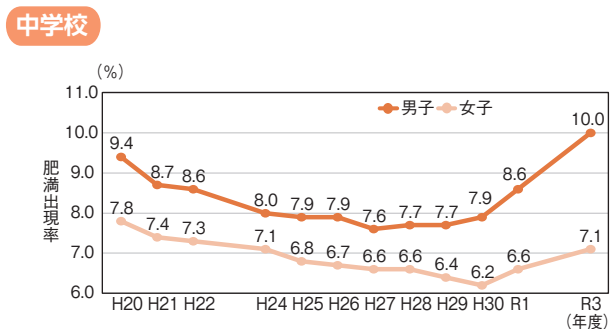
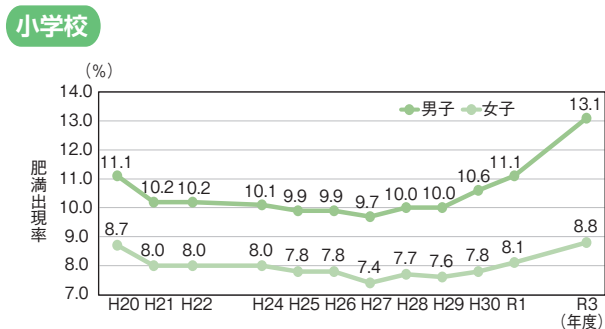
〔肥満・痩身別に見た総合評価の割合〕



〔肥満・痩身別に見た1週間の総運動時間〕



〔肥満傾向児の出現率の経年変化〕



●参考資料

〈肥満傾向児・痩身傾向児の出現率の算出・判定方法〉

〔児童生徒等の健康診断マニュアル(平成27年度改訂版)より

平成27年8月25日発行(財)日本学校保健会

・標準体重(kg) = a × 身長(cm) - b

・肥満度(%) = [自分の体重(kg) - 標準体重(kg)] ÷ 標準体重(kg) × 100

標準体重を求める係数

年齢	男子		女子	
	a	b	a	b
6(小1)	0.461	32.382	0.458	32.079
7(小2)	0.513	38.878	0.508	38.367
8(小3)	0.592	48.804	0.561	45.006
9(小4)	0.687	61.390	0.652	56.992
10(小5)	0.752	70.461	0.730	68.091
11(小6)	0.782	75.106	0.803	78.846
12(中1)	0.783	75.642	0.796	76.934
13(中2)	0.815	81.348	0.655	54.234
14(中3)	0.832	83.695	0.594	43.264

判定基準

肥満度	判定
50%以上	高度肥満
30~49.9%	中等度肥満
20~29.9%	軽度肥満
-19.9~19.9%	普通
-29.9~-20%	やせ
-30%以下	高度やせ

※平成18年度以降、算出・判定方法は変更していない。

Ⅱ 学校に対する調査

(1) 体力合計点の高い学校の取組

体力合計点の平均値が高かった学校（上位10%）における取組の実施率（最も肯定的な回答をした割合）を学校全体と比較したところ、その差が大きい項目は「児童生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定していましたか」「体育授業以外で、全ての児童生徒の体力・運動能力の向上に係る取組を行いましたか」等であった。

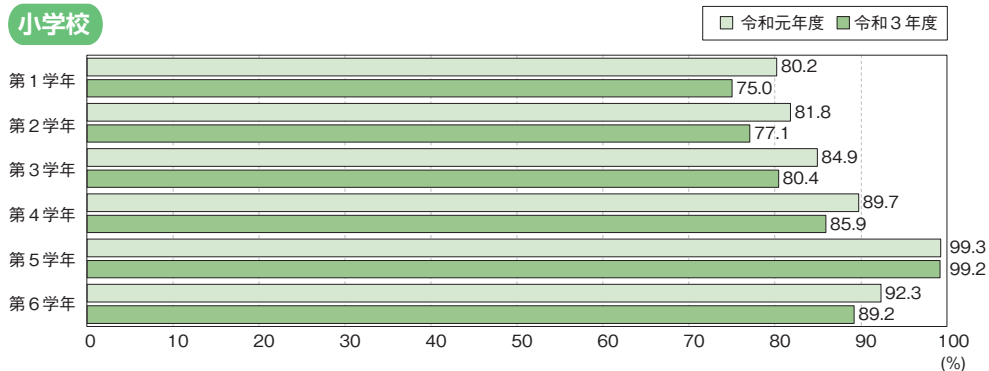
〔「体力合計点」上位校の取組実施率が学校全体を上回った主な項目〕

質問内容	小学校全体実施率 (%)	小学校男子		小学校女子		中学校全体実施率 (%)	中学校男子		中学校女子	
		上位校実施率 (%)	全体実施率との差 (ポイント)	上位校実施率 (%)	全体実施率との差 (ポイント)		上位校実施率 (%)	全体実施率との差 (ポイント)	上位校実施率 (%)	全体実施率との差 (ポイント)
質問1 令和2年度に、児童／生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定していましたか。	75.3	86.4	11.1	87.0	11.7	66.3	81.1	14.8	81.2	14.9
質問2 令和2年度に、児童／生徒の体力・運動能力の向上のための学年としての目標を、学校としての目標と別に設定していましたか。	41.7	52.8	11.1	53.3	11.5	45.9	58.2	12.3	59.0	13.1
質問3 令和2年度に、体育授業以外で、全ての児童／生徒の体力・運動能力の向上に係る取組を行いましたか。	71.4	85.7	14.3	87.5	16.1	39.8	52.6	12.7	52.2	12.4
質問4 教師は児童／生徒の体力向上に関する校内外の研修や研究会に参加し、自校の体力・運動能力の向上に係る取組に反映していますか。	11.3	16.7	5.4	16.5	5.2	10.8	15.7	5.0	14.4	3.6
質問5 運動・スポーツが苦手（嫌い）な傾向がある児童／生徒向けの取組、または性別に応じた取組を現在行っていますか。（行う予定はありますか）	42.4	51.3	8.9	51.5	9.1	55.2	57.5	2.3	58.9	3.7
質問6 これまでの全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえて、年間指導計画の改善に反映しましたか。	71.1	79.8	8.7	78.0	6.9	71.6	81.6	9.9	81.3	9.7
質問7 これまでの全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえて、授業等の工夫・改善を行いましたか。（行う予定ですか）	45.7	56.4	10.7	57.9	12.3	54.7	66.5	11.9	64.2	9.5
質問11 体育の授業では、児童／生徒同士で話し合う活動を取り入れていますか。	59.0	68.4	9.3	69.4	10.4	86.8	92.9	6.1	91.8	4.9
質問14 児童／生徒の体力向上に関して、教師の意識は高いと思いますか。	18.8	29.0	10.2	29.8	11.1	30.3	36.5	6.2	36.5	6.2
質問15 体力向上に関して、児童／生徒の関心は高いと思いますか。	14.3	25.9	11.6	26.7	12.4	11.6	19.4	7.8	18.0	6.5
質問18 健康三原則（運動、食事、休養及び睡眠）の大切さを、児童／生徒に伝えていますか。	34.2	41.9	7.7	42.2	8.0	32.0	37.1	5.1	39.0	7.1

(2) 新体力テストの実施状況

小学校の第5学年における新体力テストの実施率は令和元年度が99.3%であったが、本年度は99.2%であった。第5学年以外の学年については、令和元年度が80.2～92.3%であったが本年度は75.0～89.2%であった。中学校の第2学年については、本年度は99.4%で令和元年度と同数だった。第2学年以外の学年については、令和元年度が94.5%（第1学年）、94.8%（第3学年）であったが、本年度は95.2%（第1学年）、95.1%（第3学年）に増加した。

小学校



中学校

